

第八十九回 帝國議會
衆議院

農業團體法中改正法律案外一件委員會議錄(速記)第二回

(第八號)	水產業團體法中改正法律案(政府提出)
(第九號)	戰時森林資源造成法中改正法律案(政府提出)(第三號)
昭和二十年十二月十日(月曜日)午前十一時三十二分開議	
出席委員左ノ如シ	
委員長、川崎巳之太郎君	
理事仲西 三良君 理事松延彌三郎君	
理事北 勝太郎君	
石坂 義平君 今尾 登君	
宇田 耕一君 岡田啓治郎君	
樺美 省吾君 鈴木 重次君	
中頬 抽夫君 濱地 文平君	
別所 喜一郎君 森川 仙太君	
山田 六郎君 安孫子孝次君	
青山 憲三君 大石 大君	
眞藤 慎太郎君 奥野小四郎君	
川俣 清吉君	
出席國務大臣左ノ如シ	
農林大臣 松村 謙三君	
出席政府委員左ノ如シ	
農林政務次官 紅雲 昭君	
農林參與官 子爵北條 嘉八君	
農林省總務局長 楠見 義男君	
農林省山林局長 黒河内 透君	
農林省水產局長 笹山茂太郎君	
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ	
農業團體法中改正法律案(政府提出)	
○川崎委員長 ソレデハ只今ヨリ開會致シマス、大臣ニ質問ヲナサリタイ御	

ノデ、一寸今手ヲ外セナイ、ケレドモ必ズ來ル、併シ其ノ時間ハ分ラナイト云フコトデゴザイマスルカラ、大臣ニバカリ御尋ネ下サル方ハ後廻シニシテ戴イテ、大臣ニモ外ノ政府委員ニモト云フ方ハ、外ノ政府委員、紅露政務次官及ビ其ノ他ノ方ニ御聽キヨ顧ヒマス、ソレデハ只今カラ質疑中出ノ順序ニ依リマシテ質問ヲ許シマス——川俣君

是ハ、主トシテ手富ガ多イト思ヒマス
ガ、値上リヲ見タコトハ事實デアリマ
ス、併シサウ致シマシテモ、結局他ノ
者ニ比ベマスト、著シク低イノデハナ
イカ、斯ワ云フ風ニ考ヘテ居ルノデア
リマス、併シナガラ又一面カラ申シマ
スト、色々農民ノ爲ニ指導者トシテ、
特ニ役員ニ於テ然リデアリマスガ、從
來名譽職式ノ人々ガ急ニ相當多額ノ報
酬ヲ取ルト云フヤウナコトニナリマス
ト、一般ノ農民ニ對スル指導ノ影響ト
申シマスカ、サウ言フ點カラ考ヘマシ
テモ、色々考慮ヲシナケレバナラズ點
ガアリマスノデ、大體從來ノ傾向ヲ辿
ソテ居ル證デアリマス、平均俸給ノ點
デアリマスガ、今、申上げマシタヤウ
ナ徑路デ參ツテ居リマスノデ、正確ナ
コトハ分ラナイノデアリマスガ、我々
特ニ職員就中最も重視ヲ致シテ居リマ
スル指導職員、技術員トカ其ノ他ノ指
導員デアリマスガ、是等ノ人々ノ平均
俸給ハ、御述ベニナリマシタヤウニ、
他ノ學校教員其ノ他ト比ベマシテ、相
當低イノデハナイカト云フ風ニ考ヘラ
レマシタノデ、是ハ豫算ニ於テ補助職
員ニナツテ居ルノデアリマスガ、其ノ
補助ノ金額單價ニ付キマシテモ、年々
大藏省ト折衝致シマシテ、上ゲて貰ツ

ハ夫體六十五圓カラ七十圓、是ハ勿論
俸給デ、其ノ外ニ家族手當トカ、戰時
手當ト云フヤウナモノノ農業會ノ方デ
出シテ戴イテ居ルノアリマスガ、基
本俸給ノ豫算上ノ單價トシマシテハ、
今申シマシタヤウニ六十五圓、是ハ併
シ平均デアリマスカラ、ソレヨリモ高
イ人勿論アラウト思ヒマスガ、大體
サウ云フヤウナ傾向ニナシテ居リマス
○川俣委員 更ニ御尋ね致シタイノデ
スガ、今ノ御説明ニ依ルト、役員ハ名
譽職デアルノミナラズ、農民ノ指導者
デアルカラ、或ル程度ニ給料ヲ制限シ
ナケレバナラナイモノデアル、尙ホ其ノ
陰ニハ一方ニ於テ他ノ收入ヲ持ツテ居
ルカラ、役職員ハ名譽職ニアツテ然ル
ベキダ、隨テ俸給ト云フベキモノモ安
イノガ當然デアルト云フヤウナ御答辯
デアリマス、地方ノ所謂職員ニ付テハ
安イコトハ安イガ、是ガ改善ニ付テ考
慮サレルト云フコトデアリマスガ、概
シテ農業會關係ノ役員及ビ職員ノ給料
ノ安イ點ハ、一體何處ニアルカ、根據ヲ
何處ニ置イテ居ラルルカ、即チ役員ハ
名譽職デアル、他ニ職業ヲ持ツテ居ル
ト云フ點ニ重キヲ置イテ居ラル、ノデ
アルカ、又職員ノ場合デモ、地方ニ於
ケル有力者デアルカラ片手間デアル爲
ニ、或ル程度給料ノ安イコトハムヲ
得ナイ、斯ウ云フ風ニ御考ヘニナシテ
居ルノアリマスカ、此ノ點ヲ御尋ね
致シマス

リマス、只今ノ御質問アリマスガ、役員ノ俸給ノ基礎ハ結局是等ノ團體ハ申上ゲルマデモナク、相互組織ト申シマスカ、農民自身ノ爲ノ會デアリマスカラ、結局其ノ俸給ハ其ノ會員デアル農民カラ取ルコトニナル譯デアリマス、隨テ其ノ役員ノ俸給ガ高イト云フコトハ、結局ソレダケ會員ノ負擔力ヲ増スト云フコトニナル譯デアリマス、尤モ色々事業ヲヤリマシテ——從來產業組合等ニ於キマシテモ、色々ノ事業ヲヤツテ居ルノデアリマスガ、此ノ方面ノ收入ト申シマスカ、收益デイテ或爾程度相當ノ俸給ヲ貰ヘルト思フノデアリマスガ、指導部面ダケノ事業デ申シマスト、結局會員ニ行カザルヲ得ナイト云フコトニナル譯デアリマス、ソコデ現在ハ御承知ノヤウニ、指導事業、經濟事業ト云フヤウナモノヲ綜合シテヤツテ居ル譯デアリマスカラ、結局役員ノ俸給ニ付キマシテハ、其ノ農業會ノ經濟力ト云フヤウナモノニ根據ヲ置カガルヲ得ナイト云フ譯デアリマス、併シ先程申シマシタ職員、特ニ指導職員ト云フヤウナモノニ付キマシテ、總テヲ會員タル農民ニ負擔サセルト云フコトハ、一面ニ於キマシテ政府ノ色々ノ増産施策、其ノ他ノ施策ヲ、是等ノ人々ヲ通シ農業會ニ御實行願フ譯デアリマスカラ、其ノ裏打チト致シマシテモ、國庫カラ相當額ノ補助金ヲ出しテ居ルノデアリマスガ、役員等ニ付キマシテハ、大體只今申上ゲマシタヤウナコトニナルノデハナカラウカ、斯様ニ

考ヘル、譯ザアリマス、隨ヒマシテ名譽職ニ根據ヲ置クカ、或ハ片手間デ他ニ俸給ガアルカラ安イト云フ點、サウ云フ點ニ根據ヲ置クカト云フ御尋ナデゴザイマスガ、經濟的ノ俸給ノ問題ニ付キマシテハ、只今申上ゲマシタガウノハ、別ニ法規上其ノ他デ制限シテ居ル譯デハゴザイマセヌガ、結局役員ト農民、指導者ト被指導者ト云フ立場カラ行キマスト、人情ト致シマシテ、出来ルダケ安イ方ガ農民モ氣持ガ好イノデヤナイカ、又指導スル面カラ行キマシテモ宜ノデヤナイカ、是ハ併シ指導ト申シマシテモ、指導員等ノ職員ト指シテ居ルノデハゴザイマセヌデ、役員ノコトヲ私ハ申上げテ居ル譯デアリマス、併シ役員ノ中デモ、厖大ナ最近ノ農業會ノ仕事ニ専念シテ行ク所謂專務理事、產業組合當時ニ於キマスル專務理事、現在デ専務理事のノ人ガ居リマスガ、専念シテ農業會ノ仕事ヲヤツテ戴クト云フ場合ニハ、相當ノ俸給ヲ以テ迎ヘマセヌト、結局農業會ハ人ヲ得テレスト云フコトニナリマスノデ、是等ノ人々ニ對シマシテハ、他ト均衡ヲ保テル相當額ノ俸給ヲ出スベキモノアラウト考ヘテ居リマス

ノ農業會ダケハ、他ノ農業ト兼務スル
コトガ許サレテ居ルヤウチアリマス
ガ、此ノ點ニ付テ農林省ト致シマシ
タシタ今マデノ態度ヲ御決メニナツキ
コトガゴザイマスカ、此ノ點ヲ御尋
致シマス

○補見政府委員 御答へ致シマス、結
論ヲ先ニ申上ゲマスト、結局適當當人ヲ
適當ナ「ボスト」ニ就イテ戴クト云フモ
トカラ致シマシテ、農林省ト致シマシ
テハ、其ノ方針ヲ進ンデ居ル譯アリマ
ス、隨テ統制會社或ハ農林省所管ノ
統制團體ニ於キマシテハ、一般ノ統
制會社令ニ基キマシテ就業禁止ヲ法規
上致シマシテ、其ノ例外例ヲ主務大臣ノ
ノ認可或ハ許可ト云フモノニ掲ゲテ原
ル譯アリマスガ、サウ云フ最初ニ由
上ゲマシタ結論ノ趣旨デ以テヤソテ
ル譯アリマス、農業會關係ニ付キマ
シテモ同様アリマス、結局是ハ御選
知ノヤウニ下カラズソト系統的ニ參
テ、中央ノ農業會ヲ構成シテ居ルノデ
アリマスガ、具體的ニ適當な人ヲ選ば
シテモ同様アリマス、結局是ハ御選
ト云フコトニナリマスト、他ノ一般イ
トヤウナ方針ニ以テ、適當な人ハ、御
産業ニ於キマスト同様アリマシテ、
中々適當な人ガ得ラレナイ場合ガ多イ
ノデアリマス、隨テ最初ニ申上ゲマシ
タヤウナ方針ニ以テ、適當な人ハ、御
本人ニハ忙シクテ御氣ノ毒デアリマス
ケレドモ、就イテ戴クト云フヤウナ方
針ニ進ンデ居リマス

○川俣委員 私ノ今御尋ねシタノガ簡
單デアリマシタ爲ニ、十分ナ御答辨ヲ
得ラレカナツタノデアリマスガ、農林省
ノ管轄内ニ於ケル他ノ統制團體ニ付
テハ、或ハ業務ヲ許シテ居ラナイト私
共大體承認シテ居ルノテアリマス
ガ、農業團體ダケハ此ノ點ガ認メラ
テ居ルノデハナイカト私共思シテ居ル

ノザアリマス、ト云フノハ、恐ラク各
府縣ノ農業會長ニハ他ノ重役、地方銀
行ノ重役トカ、地方鐵道ノ重役等ヲ兼
ネテ居ル人ガ相當アルノデハナイカ、
或ハ其ノ他ノ營利會社、團體ノ役員ニ
ナツテ居ル人ガ相當數アルノデハナイ
カ、私今最近ノ統計ガゴザイマセヌカ
デ持ツテ來テ居リマセヌガ、大體全國
ノ農業會長ノ六割ハ、斯ウ云ノ團體ニ
關係シテ居ラレルト、私共想像致シテ
居リマス、最近ノ統計ガアリマセヌカ
ラ明瞭デアリマセヌガ、大體ニ於テ農
林當局ハ如何ニ御觀察ニナツテ居リマ
スカ

リマシテ、特別ノ措置ヲ講ジテ居リマス、兎ニ角下ノ方ハサウ云フコトニ依テ會員ノ中カラ會員ガ理事ヲ選ブト併シ今申上ゲマシタヤウニ、此ノ系統團體ヲ下カラ積上ゲテ行キマス場合ニ、下カラノ人ヲ順次上ノ團體ノ理事或ハ監事ニ持ツテ行ク、而モ出來ルダケ常勤のニ會ノ仕事ヲヤツテ戴クコトニナリマスト、實際問題トシテハ御想像願ヘルト思ヒマスガ、會ヲ運営シテ参リマス場合ニ於テハ、非常ニ困難ナ事態ガ生ジテ参ルノデアリマス、隨て現在モ中央ノ團體ノ如キハ、例へバ現行法ノ農業團體法五十一条デハ、「理事長及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ、但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ」ト云フヤウニ、一般ノ法制ト同ジヤウニ、他業務就業禁止ノ制限ノ規定ヲ設ケテ居ルノデゴザイマス、結局只今申シマシタヤウナコトデ、他ト方面ノ有識者、特に農業關係ニ造詣ノ深イ、又理解ノ深イ人ヲ選ブ、斯ウ云フコトニナラザルヨ得ナイト考ヘテ居ル次第デアリマス

カラ最後マデ徹底シタ會社ノ御用振りヲ
ヲ動メタコトニ依ツテ、其ノ社長ガ遼
ニ辭メルコトニナツタノデアリマス、一方
斯ウ云フ例ヲ見ルノデアリマス、一方
地主ト云フ一ツノ勢力ヲ持ツテ、其ノ
小作料ヲ同ジ會員カラ取立ツル方法ニ
付テ、會費トシテ取立テルカ、小作料
トシテ取立テルカ、此ノ二方面カラ取
立テ居ル、農林省ハ農業團體ノ會費
ハ、所謂會費トシテ銘ヲ打タナケレ
バ、是ハ負擔デナイト御考ヘニナツテ
居ルカモ知レマセヌケレドモ、是ハ會
費及ビ小作料ト云フニツノ點カラ會費
ヲ取立テ居ツタ、隨テ會費ガ安イカ
ラ、役職員ノ給料ガ安イト云フコト
ハ、決シテ私ハ成立タヌト思フ、一方
役職員ノ地位ヲ利用シテ小作料ト云フ
モノヲ確實ニ取ルコトニ致シマシテ、
給料以上ノモノガ確保サレテ居ル、此
ノ點ヲ恐ラク見通シテ居ツタノデハナ
イカト恩フ、モウ一ツ所謂專任ニ當ツ
テ居リマス技術的ナ職員、是モ一方ニ
於テハ地主デアリ、一方ニ於テハ地方
ノ有力者デアルト言ハレテ居リマス人
ガ、相當澤山參加セラレテ居ルノデア
リマス、是ハ私ハ必ズシモ排撃スルモ
ノデハアリマセヌケレドモ、專業ニア
ル所ノ農業指導カラ受ケル所ノ俸給ガ
少イ爲ニ、自分ノ土地ヲ持ツテ居リマ
ス其ノ土地ノ方カラ上ガル收入ヲ増加ス
ルト云フコトニナリマスルト、ヤハリ
會員デアル農民カラ取ツテ參ラナケレ
バナリマセヌ、隨テ是等ノ職員ノ俸給
ト云フコトモ、私ハ二ツニ見ナケレバナ
ラヌト思フ、全ク地主モナイ所ノ職
員ハ、是ハ私ハ非常ニ給料ガ安イモノ
ダト思ヒマスケレドモ、是ハ名譽職ア
アルカラ安イト云フヤウナ關係ニ於テ
職員ニナツテ居ルト思ヒマスガ、其ノ

名醫職タル者ハ決シテ世間ニ於ケル名醫職デハナケシテ、ヤハリ俸給ヲ
殊ニ會員アルベキ農民カラ、——之ヲ強イ言葉ニテ言ヘバ捕取スルト云フ言葉ガ使ハレルカモ知レマセヌケレドモ、私ハ其ノ言葉ヲ避けマシテモ、ヤハリ兩面カラ給料ヲ取ツテ居ル、斯ウシテモ、此ノ根本ノ考ヘ方ヲ是正シテ参リマセヌケレバ、形ハ民主的ダト申シマシテモ、眞ニ農民ニ其もヲ置カナリ考ヘ方デアル、役職員ヲ決メラレ、或ハ職員ノ給料等ニ於テ御考慮ニナルニ付キマシテモ、ソコニ根據ヲ置クコトニ依ツテ民主的ニナルモノト云フ考ヘ方ヲシナケレバ、根本的ニ形式的ナ民主主義デアリマシテ、實際のナ民主主義ニナラナイト考ヘルノデアリマスガ、此ノ點ニシタ中デ、特ニ市町村農業會ノコトヲ盛シニ御話ダト存ジマスガ、役員ガ名譽職トシテ俸給ハ取ツテナイ、併シ役員タル地位ニ於テ小作料ノ確保ニ相當ノ影響力ヲ持ツテ居ル、結局ソレダケ會員カラ自分ノ俸給ノ根源ヲ確保シテ居ル、斯ウ云フヤウナ點ニアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテハ、色々見方モアラウト思ヒマスシ、又此處デ其ノ點ヲ申上ゲマスト議論ニナリマスノデ、ノ御話デゴザイマスガ、サウ云フ風ニ省略サセテ戴キタイト思ヒマスガ、結果御述ベニナリマシタ役員ガ、會ノ爲ニ報酬ナルガ故ニ、會ノ爲ニ働イテヤ

ソテ居ルト云フ考へガ出ガチナコトモ
アルノデアリマスガ、根本的ノ考へ
ト致シマシテハ、我々ハ指導員或ハ良
務的ノ職員等、純職員的ノ色彩ノ強イ
人々ハ是ハ農業會ノ負擔能力ノ關係モ
ゴザイマスガ、出來ルダケ俸給ハ良
クシテ上ゲタイ、隨テ此ノ點ニ於テ國
庫補助ノ點ニ付テモ、相當連年努力ヲ
致シテ居リマスコトハ御承知ノ通りアリ
アリマス、ソレ以外ノ所謂從來ノ名譽
職式ノ色彩ノ強イ役員ノ方々デアリマス
スルガ、是ハ先程來申上ゲマスルヤウ
ナ意味カラ致シマシテ、出來ルダケ俸給
給ハ安クシテ、我慢ヲシテ戴キタイ、
勿論今ノ専務のニヤソテ戴カナケレバ
ナラヌ事務理事ノヤウナ人ハ別デアリ
マスガ、ソレ以外ノ人ハ出來ルダケ
ツ安クシテ戴ク、サウシテ其ノ考へ方
ハ、俸給ガ安イカラ體イテヤツテヤル
ト云フヤウナ氣持デナクテ、眞ニ農ヲ
愛シ、農ノ爲ニ盡シテ戴クト云フヤウ
ナ人ノ廣く求メ、之ヲ會ノ從來ノヤウ
ナ行政官廳カラ抑付ケルトカ何トカ云
フヤウナ任命、認可ノ方針ヲ止メマシ
テ、眞ニ農民ノ輿望ヲ受ケタ、ソレ等
ノ方ニナツテ戴ク、斯ウ云フヤウナ考
へ方デ進シテ參りタイト存ジテ居ル次
第ニアリマス

マスル間ニ於ケル貯藏中ニ於ケル損耗
米ヲドノ程度ニ見テ居ラレルカ、十
年度產米ニ於テ幾ラ、二十年度產米
於テ大體豫想セラレテ居リマス高ヲ
伺ヒ致シマス

○楠見政府委員　此ノ點ハ正確ナコ
ハ私承知致シテ居リマセヌガ、併シモ
マデノ例ニ微シマシテ、大體貯藏中
輸送モ合メマシテ、農家カラ農業倉庫
ニ入り、ソレカラ輸送手段ヲ經マシニ
消費者ノ手ニ入ルト云フマデノ間ニ
是ハ物ニ依ツテ違ヒマスガ、大體減耗率
率ト申シマスモノハ一%カラ三%、其
ニ入り、ソレカラ輸送手段ヲ經マシニ
消費者ノ手ニ入ルト云フマデノ間ニ
尤モ特別ニヒドイ減耗率ノ高イモノ
農產物ノ種類ニ依ツテハゴザイマー
ガ、大體穀類ニ付テハ、今申シマスハ
ウニ一%カラ三%ト云フヤウナ風ニ
知致シテ居リマス

○川俣委員　私ノ御尋不致シテ居リ
スノハ、主トシテ米デアリマス、其ノ意
味ノ御答辯ラ願ヒタイノデアリマス、
穀類ノ減耗率ヲ今御述ベニナリマシト
ノデアリマスガ、是ハ營幽ニ渡ルマ
ノ減耗率デアリマスカ、或ハ消費者
渡ルマデノ減耗率ヲ含メテノモノデ
カ、此ノ點ヲ御尋不致シマ
ツハ減耗率ト云フモノハ、本當ノ意
ノ減耗率デアルカ、或ハ計算上ノ減
率デアルカト云フ點ヲ御尋不致シマ
○楠見政府委員　先づ第一點ノ御尋
ハ、營幽ニ渡ルマデト承知致シテ居
マス、ソレカラ減耗率ノ意味デアリ
スガ、是ハ何ト申シマスカ、俗ニ日
リト稱スルモノデアリマス、例ヘハ
税率ガ其ノ間ニ植エタリマストカ
自然荷零レガ大體通常ノ輸送手段チ
クト是位ノ荷零レガアルトスウ云フ
ウナ純客觀的ナ經驗的ナ率カラ見タ

ヲ申上ゲテ居ルノニアリマス、ソレ以外外ノ色々々ノ人爲的ノ手段ヲ以テノ減耗率ハ、是ハ勿論入ツテ居ラナイコトハ申上ゲルマデモナインゾアリマス
○川俣委員 更ニ御尋ね致シマス、サウ致シマスト此ノ減耗率ト云フモノハ、自然ニ農民ニ先ニ負擔サセテ居ルモノト普通考ヘラレテ居ルノニアリマスカラ、然國ニ渡ルマデハ實質的ニハ是等ノ減耗ハシナイモノト了解シテ宜シウゴザイマスカ

○楠見政府委員 質問ノ御趣旨ガ一寸分リマセヌガ………

○川俣委員 ソレデハ更ニ申上ゲマス、農民カラ生産米トシテ検査ヲ受ケテ御取りニナル場合ハ、既ニ此ノ減耗率ヲ見込ンデ増量サレ居ル筈デアリマス、隨テ増量ノ分ダケガ減耗シテ營圃ニハ正味ノモノガ渡ル、斯ウ云フ風ニ考へベキ減耗率ダト存ジマスガ、ソレ以上ニ更ニ減耗スルト云フ風ニ御考ヘデアリマスカ、此ノ點ヲ………

○楠見政府委員 大體今御述ベニタゞタヤウナコトデアラウト恩ヒマスガ、唯は私所管外ニナルコトデアリマスカラ、必娶ガアレバ別ノ機會ニ食糧管理局ノ方カラデモ御答ヘサセテ戴キタイト思ヒマス

○川俣委員 私ノ御尋ネ致シタインハ、實ハコンナ小サイ點デハナインデスケレドモ、是カラ御尋ネシナイトハソキリシテ參ラナイノデ御尋ネスルノデアリマスガ、大體或ル程度ノ減耗率ト云フモノヲ生産者ニ負擔ヲ掛ケテ居ル譯デアリマス、所ガ更ニ營國カラ消費者ニ渡ル場合ニハ、又之ニ二一定ノ減耗率ヲ見テ居ル、此ノ點ニ非常ア不合理ガアルノヂヤナカト云フ點ヲ、私ハ數字的ニ明確ニ致シタイト云フ考へ

ナノデアリマス、隨テ此ノ點ニ付テ
後程デモ、管理局カラオイデニナツタ
時ニ御導ネスルコトニ致シマス、隨テ
モ、一體聯合軍ト折衝サレテ居リマス
ノニ、此ノ點ヲ御考慮ニナラナイデ、
本當ノ生産高ト消費者ヘ渡リマス間ニ
ナクナツテ居リマスト云フモノフ、
ドウ云フ風ニ計算サレテ、聯合軍ニ對
シテ交渉ニナツテ居リマスカ、此ノ點
ハ計算ナシニ交渉サレタカ、恐ラクス
ウ云フ點ニ付テモ細目ニ亘ツテ計算ニ
ナツテ居ル筈ダト思ヒマスガ、ドウ云
フ計算ヲサレテ交渉サレマシタカ、此
ノ點ヲ承リタイ

○補見政府委員 一般的ノ考へ方デア
リマスカラ、其ノ點ニ付テ私カラ申上
ゲマス、結局從來ノヤリ方ハ動モスル
ト生産者ニ相當強イ負擔ヲ掛ケル、又
一面は消費者ニ行ク場合ニ消費者ニ
モソレ相當ノ負擔ヲ掛ケテ居ルト云フ
ヤウナ點ガ先づ第一點ニ御導ネオヤウ
ニ伺ツタノデアリマス、是ハ或ル意味
ニ於テ從來ノ商習慣カラ考ヘマシテ、
生産者ニ負擔ヲ掛ケテ居ツタモノモ少
クナインデアリマス、併シ段々ト情勢
ガ變ツテ參リマシタノデ、例ヘテ申シ
マスト、農業會等ノ販賣手數料ノ問題
デアリマスガ、御承知ノヤウニ、米ハ
委託販賣デ以テ農業會ガ政府ニ賣ルコ
トニナツテ居ルノデアリマスガ、野菜
ニシマシテモ市場會社ニ賣ル場合ニ
仕切値ノ中ニ產地ノ出荷額體ノ手數料
ガ入ルカ、或ハ外粋ニナルカト云フヤ
ウナコトガ問題ニナツタコトガアルノ
テハ、是等ハ從來商習慣トシテハ、サ
ウ云フ風ニナツテ參ツテ居ツタモノモ
多カツタノデアリマスガ、最近ノ傾

向ハ、農民側或ハ其ノ他ノ生産者側カ
ヲ見マスト、結局公定價格ガ決マリ、
其ノ公定價格ノ中ニ手數料等ガ食込
デ居ル、寧ロは消費者ノ側ニ於テ負
擔スベキデハナイカト云フヤウナ考へ
方ガ非常ニ強ク起ツテ參ツタノデアリ
マス、是ハ一般ノ需給狀況ヲ反映シタ
費手、買手ノ立場ノ強弱ト申シマス
カ、サウ云フヤウナ關係モアラウト思
フノアリマスガ、鬼ニ角最近ノ食糧
事情ニ下ニ於キマシテハ、生産者側ノ
サウ云フ要望ガ非常ニ強イノデアリマ
ス、是ガ父增産意欲ニ少カラヌ影響ガ
アル譯デアリマス、隨テ最近ノ傾向ト
致シマシテハ、從來ノサウ云フヤウチ
生産者ノ負擔ノモノハ、出來ルダケ消
費者負擔ニ轉嫁シテ行ク、斯ウ云フヤ
ウナコトニナツテ居ルノデアリマス、
唯米ノヤウニ一般家計費トノ關係カラ
致シマシテ、ソレダケノモノヲ其ノ儘
消費者ニ掛ケルコトガ極メテ困難デア
ルト云フヤウナ場合ニハ、結局中間ニ
於テ政府ガ補償金ト申シマスカ、補
給金ヲソレダケ多ク見テ出ス、先程申
上ゲマシタヤウナ農業會ノ販賣手數料
ト云フヤウナモノヲ結局政府ガ持ツ、
斯ウ云フヤウナコトニナツタノデアリ
マス、此ノ傾向ハヤハリ今後續クノデ
ハナイカ、大體サウ云フ方向を行クノ
デハナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘラレマ
ス、又消費者ニ對スル負擔ノ問題ニ付
キマシテモ、結局是ハ消費者ノ負担シ
得ル限度ト云フモノノ一應ノ見透シ
ト、ソレカラ現實ニ出テ參リマス負擔
額ト云フモノトノ差額ヲ政府ガ見ルカ
見ナカ、結局是モ大體政府ガ見ルト
云フノガ、今マデノ行キ方デアリマス、
此ノ點ニ付テハ現在ノ經濟事情等ニ依
リマシテ、多少考へ方ガアルカトモ

云フ方向デナイカト考ヘルノデアリマス
ソレカラ第二點ノ聯合軍側ニ對スル
要求ノ問題デアリマスガ、細カイ數字
ハ私只今持ツテ參シテ居リマセヌデス
ガ、大體ノ考ヘ方ハ斯ウ云フ風ニ致シ
テ居リマス、ソレハ國內ノ供給力、即
チ米、麥或ハ大豆、雜穀等ノ穀類、ソ
レカラ甘藷、馬鈴薯等ノ芋類、其ノ外
水產物、畜產物、斯ウ云フヤウナ全體
ノ供給力ヲ想定致シマシテ、其ノ中ア
可食歩合ト非可食ノモノ、例ヘバ麥デ
申シマスト、是ダケノ生產額方豫想サ
レル、其ノ生產額ノ中テ食糧トシテ廻
スモノハ是ダケ、家畜ノ飼料其他「ビー
ル」用トカ、色々ノ純食糧以外ノモノ
ノガアル譯デアリマスガ、サウ云フ方
面ニ廻ルモノハ是ダケ、結局可食歩合
ヲ見マシテ、其ノ可食歩合ノ總計デ以
テ人口一人當リ一日何「カロリー」ガ取
ルカ、一人當リ一日何「カロリー」ハ結局國民
ハ生命ヲ維持出來ナイ、隨テ是ダケノモ
ノハ最低輸入ヲ懇請シテ行キタイ、
斯ウ云フヤウナ建テ方デヤツテ居リマ
ス

○補見政府委員 其ノ點ニ付キマシテ
ハ、別ノ機會ニ食糧管理局ノ方カラ御
答ヘラ致シタイト存ジマス
○川俣委員 私ハ數社ハハツキリシマ
セヌデモ、大陸聯合軍ト交渉サレル場
合ニ於テ、日本ノ生産高カラ消費者ヘ
渡ルマデノ間ノ數量ト云フモノガ、一
應明瞭ニナツテ居ナケレバ、交渉が出来
ナカツタノデヤナイカト存ジマスカ
ガ、此ノ點ハドウデスカ
○補見政府委員 其ノ點ニ付キマシテ
ハ、先程申上ゲマシタ人爲的ニ依ル減
耗ト云フモノハ一切見テ居リマセヌ
ト申シマスコトハ、結局人爲的ノ減耗
ガアルト致シマスレバ、ソレハ國內問
題トシテ日本側ニ於テ當然ソレ等ノ減
耗ヲ防止スベキ筋合ノモノデアリマス
ノデ、到底聯合軍側方容認スベキ筋合
ノモノデナカラウト存ジマス、隨テ供
給量トシテハ、生産ノ數量ヲ出シマシ
テ、ソレヲ先程申シマシタヤウナ可食
歩合ト云フヤウナモノノ全量ヲ碧ゲテ
食糧ノ供給源ニシテ居ルト云フヤウ
ナ計算ニ立ツテ其ノ儘聯合軍ニ出シテ
居ルヤウナ次第アリマス
○川俣委員 サウスルト、消費者ノ
「カラリー」ハ、一體二合一勺ト決メラ
食糧ノ供給源ニシテ居ルト云フヤウ
ナ計算ニ立ツテ其ノ儘聯合軍ニ出シテ
居ルヤウナ次第アリマス
○川俣委員 サウスルト、消費者ノ
「カラリー」ハ、一體二合一勺ト決メラ
スカ、其ノ「カラリー」ノ計算ノ根據ナ
「グラム」实行ツテ居リマスカ、ソレト
モ二合一勺ガ何「グラム」三ナルト云
計算デ珍ツテ居リマスカ
○補見政府委員 ソレハ重量、即チ
「グラム」デ以テ計算シテ居リマス

「グラム」ト云フ計算デスカ、私ノ御伺ヒシタイノハサウ云フ小サイ點デナア、農民カラ取ル場合ノ一石ノ「キログラム」ノ換算ト、消費者ヘ渡ル場合ノ一石ノ「キログラム」トノ間ニ相違ガアル爲ニ、其ノ點ヲ御尋ネシタイノテス、農民カラ取ルノハ一石ノ「カロリー」ハ是ダケダ、消費者ニ渡ル一石ノ「カロリー」ハ是ダケダ、其ノ間ニ減ルンデヤナイカト思ヒマスノデ、其ノ點ヲ御尋ネ致シマス

○楠見政府委員 正確ナコトヲ只今私覺エテ居リマセヌガ、大體二合一匁ハ千「カロリー」程度ニナルノデハナイカト思ツテ居リマスガ、是ハ先程申上ゲマシタヤウニ「合」匁ハ二百九十七「グラム」ニアリマシテ、「カロリー」計算トシテハ其ノ「グラム」ヲ基礎ニシテ出シテ居ルノデアリマス

○川俣委員 其ノ二百九十七「グラム」ト云フト、農民カラ政府ガ受取ラレタ場合ノ重量ト茲ニ差ガ出テ來テ居リマス、是ハ何デアリマセウカ

○楠見政府委員 結局先程來申上ゲマスヤウニ、一人一日、日本人ノ平均ノ「カロリー」ヲ聯合軍ニ對シテ居ルノデアリマス、隨テ斯ウ云フヤウナ説明ノ仕方ニ致シテ居リマス、先程來申上ゲマスヤウニ、全供給量ヲ想定人口デ割リマシテ、米ハ假ニ四千三百萬石、甘藷ハ十三億一千萬貫ト假ニ致シマスト、其ノ中カラ食糧トシテハ例ヘバ七億ニナル、之ヲソレバノ物ヲ「トン」ニ換算ヲ致シマシテ、ソシテ其ノ全體ノ「カロリー」ヲ總「カロリー」トスル、隨テ何兆ト云フヤウナ天文學的ノ數字ニナルノデアリマスガ、ソレヲ人口ヲ割ルト、例ヘバ最近御聞キノヤ

ウ大、一人當り千三百二十五「カロリー」
ニナル、斯ウ云フコトデ出シテ居ルノ
ノデアリマス、併シは平均デアリマスカラ、結局農家トシテハ之ヲ超過シ、都市トシテハソレ以下ニナツテ居ルト云フコトハ、結局現在ノ配給量ト云フモノヲ基礎ニ致シテ居ルカラズアリマス、ソコデ御尋ネハヤワナ趣旨カラ申シマスト、人々的ニ減耗シタモノハドウ云フ風ニナルカト云フ點ガ問題ニナルノデアリマスガ、聯合軍ニ對シマスル提出資料トシマシテハ、只今申上ゲマシタヤウナ總括的ノ點デ、唯都市ガソレノ平均ヨリモ落ル、農村ハ是ヨリモ多イ、隨て都市ノ缺乏ヲ救フ爲ニハ、更ニ平均率デ見テ、假ニ三百万ト云フコトデアレバ、是ガ最優秀トソレ以上ノモノヲ入レテ貰ヒタイ、斯ウ云フヤウナ交渉ヲ致シテ居ル次第ニアリマス

トシテ居ル、ソコデ「キロ」ノ方カラモ
既ニ方ノ減耗ヲ見テ居ラレル、其ノ
六十「キロ」ガ消費者ニ渡ル時ニハ更ニ
低下シナケレバナラナイト云フ根據ガ
ドウモ明瞭ニナリマセヌ、此ノ點御
ネ致シテ居ルノデアリマス、現ニ今日
市場ニアリマス營團ノ米ニ付テ
重量ニシテオ計リニナリマシテモ分り
マス通り、アノヤウナ乾燥状態ノ悪イ
米ヲ以テ重量ヲ換算サレテ居リマスト
非常ナ開キニナル、是ハ何處ノ營團ヲ
御取上げニナリマシテモ明瞭デアリマ
スカラ、私ハ茲ニ詳シク申上ゲマセヌ
ケレドモ、北ノ點ニ對シテ改メテ御答
辯ヲ得タイト思ヒマス

更ニ進ンデ御尋ネ致シタイノハ、農
業會ガ將來發展致シマスル途上ニ於キ
マシテ、今マデハ農業ト云フモノガ勿ニ
論農村ノ主體デアリマスカラ、農村内
ニ於ケル農村民ト云フモノハ、皆農業
ヲヤツテ居ルト云フ考ヘ方デ、大體出
來テ居ルノデハナイカト思ハレマス
ガ、今後ノ日本ノ趨勢カラ見マシテ、
必ズシモ農業ヲヤラナイ農村民ト云フ
モノモ、相當出テ參ルノデハナイカト
考ヘルノデアリマス、例へば今後政府
ノ考ヘ方ニ致シマシテモ、マダ地主ガ
存在致スノデアリマシテ、而モ其ノ地
主ハ自ラ耕作セズニ人ニ作ラセル、或
ハ人ヲ雇ツテ作ラセル、斯ウ云フ考ヘ
方ガ殘ツテ居ル譯デアリマス、農村ノ
中ニ於ケル者必ズシモ農業ヲ主體トシ
テ居ル者バカリデハナイ、農業ヲシテ
シテ、眞ニ協同體トシテノ農村ト云フ
モノヲ考ヘテ行カナケレバナラヌト想
ヒマスガ、其ノ考ヘ方ト、此ノ農業團

メテ行クト云フコトニハナラナイト思ヒマス、日本ノ将来ノ農業ト云フモノハ、成ベク多數カラ少數ニナツテ、生産率ヲ高メテ行クト云フコトデナケレバナラヌ、今ノ状態ヲ見ルト、各々ガ食ツテ行ク爲ノ農業デアリマシテ、一般ノ國民ヲ養フ所ノ農業デハナイノデアリマス、多クノ人々ガ成ベク自分ダケガ食ヘレバ宜イト云フ農業ニナリツ、アル、隨テ國民譽ゲテ食糧生産ニ從事シナケレバ食糧ガ出来ナイト云フコトデアリマスレバ、私ハ是ハ獨立國家ニナリ得ル態勢デハナイト思フ、出來ルダケ農民ト云フモノハ、農產物ノ生産者ト稱スルモ、市場性ノアル所ノ農產物ヲ多ク作ル、茲ニ農業ノ行キ方ヲ變ヘテ參ラナケレバナラヌノデヤナイカ、今ノ農業ハ段々市場性ヲ持タガラ市場性ノナイモノガ殖エテ行ク、徒ラニ生産高ガ殖エマシテモ、市場性ヲ持ツテ居ナケレバ、國家、國民ヲ養フ所ノ基礎ニハナラナイ、農民ガ國家ノ爲ニ働イテ居ルノダト申シマシテモ、是ハ國家ノ爲ニ働イテ居ルノデハナクテ、半分以上ハ自分ノ爲ニ働イテ居ル、市場性ヲ持ツタモノヲ澤山出スコトニ依ツテ、初メテ國家、國民ノ爲ニ働イテ居ルト云フコトガ言ヘル、生産ノ半分或ハ何割ト云フモノヲ自己消費スルノデアリマスレバ、是ハ國家ノ爲ニ働イテ居ルト云フコトニハナラナイ、隨テ生産ノ多イト云フコトヨリモ、市場性ヲ持ツタ生産高ガ多イト云フコトニナツテ行カナケレバナラヌ、所ガ農林省ノ考ヘ方ハ、オ互ヒニ食フ物ガ食ヒタイナラ開墾セイ、或ハ作レト云フコトデアツテ、決シテ市場性ヲ高メルト云フコトヲ考ヘテ居ラレナイ

○補見政府委員 従來ノ排他的ノ農本主義ト云フ點ニ付テノ御話アリマスガ、是ハ申上ゲルマデモナク、純粹ノ農本主義ト云フ意味ハ決シテ排他的ノ意味コ持ツテ居ラスト思フノデアリマスガ、説ク人、又之ヲ考ヘル人ニ依リマシテ色々ノ見解ノ相違ヲ生ジ、結局今御話ニナリマシタヤウナ排他的ナ農本主義ガ強カツタノモ事實デアリマス、而モ此ノ排他的ナ農本主義ガ農業ノ科學的ナ進歩ヲ非常ニ遲フセダト云フコトモ亦事實デアル譯デアリマス、私共ハ勿論此ノ農本主義ニ付キマシテハ、先程モ申上ゲマスヤウニ、他ノ面部ノ長所ヲ十分採入し、又商工ト農トノ一體化ト申シマスカ、斯ウ云フ意味ニ於テ農本主義ト云フモノヲ考ヘテ行カナケレバナラヌコトト思フノデアリマス、農業國トシテ日本ヲドウ云フ風ニ進メテ行クカト云フ問題デアリマスガ

題トシテ全人口ヲ此ノ國內デ包容シテ行クト云フ上カラ申シマシテモ、結局此ノ點ニ思ヒヲ致サナケレバナラヌコトハ當然デアリマス、隨テ現在ノ此ノ單位當リノ生産量ヲ以テ、生産農民ガ相當ノ量ヲ其ノ中カラ自己ノ食糧トシテ取上ゲルト云フコトヘ、結局ハ周密的ニ其ノ生産ニ自己ノ肉體労力ヲ餘計ニ掛ケル、其ノ爲ニ攝取スペキ「カロリー」ガ多クナツテ參リマシテ、所謂、一升飯ト云フヤウナ言葉ガ出ル程ニ、ドウシテモ働ケバ働ク程、其ノ効ク給源トシテノ食糧ヲ多ク攝ラナケレバナラナイト云フ結果ニナル譯デアリマス、隨テ此ノ部面ニハ凡ニ機械力或ハ家畜ノ力ヲ入レ、又之ヲ多角經營トシテ農業ヲヤツテ行クト云フコトニシナケレバ、ドウシテモ將來ノ日本ハヤシテ行ケナイノデハナイカト考ヘル譯ノ問題ヲ例トシテノ御話デアリマスガ、兎ニ角斯ウ云フヤウナ情勢ニナツテ參リマシタノデ、出來ルダケ人口ヲ此ノ本土内ニ包容シテ行カナケレバナラヌ、サウナツテ參リマシタ場合ニ、近キ將來ニ於テ商業ノ方面ニドレダケノ人口ガ包容出來ルカ、或ハ重工業自體モ非常ニ行先ハハツキリ致サナイノデアリマスガ、重工業ニドレダケガ包容サレルカ、輕工業ニドレダケガ包容サレルカト云フコトニナリマスト、是ハ極メテ難シイ問題ニナル譯デアリマス、ト同時ニ只今私ガ申上ケマシタヤ

ウナ意味ニ於ケル農業立國トシテ考ヘ
テ參リマスル場合ニ、出來ルダケ之ヲ
土地ニ包容シ、而キ出來ルダケ生産力
ヲ上ゲル、其ノ生産力ヲ上ゲル方向
ハ、先程申上ゲマシタセウニ、他ノ人
口ヲ出來ルダケ包容スル、ソレニハ色
色ノ部面ヲ取入レテ考ヘテ行クト云フ
ヤウナ方向ニ行カザルヲ得ナイノデハ
ナイカト云フ考ヘ方デ、現在農林省ト
シテハ色々ナ方策ヲ考ヘテ居ル次第デ
アリマス

○川俣委員 政府委員ノ御考へハ大體
其ノ感ヲ一ニスルノデアリマスガ、一
寸見解ノ異ル點ヲ申上ゲタイト思ヒマ
ス、農林省ガ他ノ重工業、他ノ商業部
面ニ於ケル包容人員ヲ豫定サレナイ
デ、農業ノ方面ニ多ク向ケナケレバナ
ラナイ、斯ウ云フ風ニ御考ヘノヤウデ
アリマスガ、私ハ是ハ誤ツテ居ルノデ
ハナイカト思ツテ居リマス、ト云フノ
ハ、今食糧難ノ爲ニ農村へ人口ノ移動
ガ行ハレテ居ルノデアリマシテ、農業
生産ヲ高メル上カラ移動シテ居ルモノ
デハナク、又生産ヲ高メル上カラ決シ
テ包容サレテ居ルモノデハナイト考ヘテ
居リマス、現實ノ食糧事情ノ困難カラ
來テ居ルノデアリマシテ、其ノ對象カラ
ラ出テ居ルモノデハナイト想定致シテ
居ルノデアリマス、若シモ私共ニ考へ
サセマスナラバ、今日ニ於テ最モ必要
ナモノハ日本ニ於ケルヨリ原料資源
ノ開發デアリマス、此ノ開發ニ國民ヲ
分配サセルト云フ考ヘ方ガ最モ必要デ
アリマス、資源ノ開發ニ十分ナ人人ノ配
合ガ出來ナインオハ、食糧ノ事情ガサセ
テ居ルノデアリマシテ、此ノ食糧事情
ノ結果、國民ヲシテ正當ナ日本ノ資源
開發ノ上ニ必要ナ人口ノ配置ガ出來ナ
イト云フ所ニ、私ハ寧ロ懶ミガアルト

思フ、隨テ現實ノ食糧難ノ爲ニ農村ニ
於テ人口ヲ吸收スルコトガ、單ニ農產
物ノ價格ヲ上ゲル上カラデアルト云フ
ヘ方デナイト、農村ニ於テ出來ルダク
コトナリマスレバ、消費量ヨソ殖エテ
參レ、決シテ市場性ノアル農產物ハ殖
エテ参ラヌト思ヒマスカラ、此ノ點ハ
御答辯ハ要リマセヌケレドモ、私ノ考
ヘヲ御参考マデニ述ベテ置キマス、御
答辯ノ中カラ更ニ進ンデ御尋ネ致シタ
イノハ、此ノ農業體ニ主體ヲ大體ニ
於テ自作農ニ置イテ居ラレルノダラウ
ト思ヒマスガ是ハ大臣ニ御答辯ヲ頗フ
方ガ適當ダト思ヒマスカ、局長ニモ此
ノ點ヲ御尋ネシテ置キタインヂス、私
ハ自作農ト米ノ供出トハ對蹠のナモノ
デアル、自作農ニナルコトニ依ツテ圓
滿ナ供出ガ出來ルト大臣ハ度々ノ委員
會及ビ他ノ機會ニ於テモ述ベテ居ラレ
マスガ事務當局モ亦大臣ト見解ヲ同ジ
タサレテ居ルノカドウカ、比ノ點ヲ御
尋ネ致シタインヂアリマス、即チ自作
農トハ先ニオ話致シマシタ如ク、其ノ
本質ハ自ラ耕シテ自ラ食フ、自給自足
ノ建前デアルト思フ、隨テ自作農ノ建
前ハ他ノ人々ヨリモ多ク其ノ生産物
ヲ消費スル、所謂自分ノモノハ自由處
分ガ出來ルト云フ所ニ自作農ノ考ヘ方
ガアル、自分ノモノヲ自由ニ處分シタ
イト云フコトト、供出トハ非常な對蹠
的ナモノダト思フ、隨テ自作農ノ謂フ
供出ハ、供出デハナク、自分ガ食フ
ダケノモノヲ食ツテ販賣ミデア
ルカラ、所謂政府ニ對スル販賣ミデア
クテ、政府、消費者ノ謂フ供出デハナ
イ、消費者及ビ政府ノ謂フ供出ハ、農
民ノ生產シタ中カラ、所謂飯米マデ寄

越セデ、一定ノ飯米モ興ヘナイ、斯様ニ飯米ヲ制限スル所ニ政府、消費者ノ謂フ供出ガアル、ソレト自作農ノ本質トハ對照的ノモノデアルト私ハ考ヘマスガ、此ノ點ニ付テ事務當局ハ如何ナル御考ヘツ持ツテ居ルカ、伺ヒタイルコトヲ、何等カノ御参考ニ申上ゲテ置キマス、自作農ニナルト、供出米ガ確保サレルト云フコトヲ考ヘテ居ルノハ、結局從來ノ地主ノ飯米、保有米ガ減少スルト云フコトガツ、モウツハ結局自分達ノ土地トナルト云フ勵ミガ出で參ル譯デアリマスカラ、偶々増産ヲスレバソレダケ食糧ガ多クナルデハナイカ、自分ノ消費スル食糧ガ多クナルデハナイカト云フコトデアリマシタガ、此ノ點ニ付テハ出來ルダケ他ノ機械力ナドヲ取入レテ、出來ルダケ其ノ方ノ改善ヲシテ戴ク、同時ニ自分ノ工夫ヲシテ戴イテ、出來ルダケ國ノ必要トルスル、現在ノ食糧事情カラ見テノ必要ナ食糧ヲ出シテ戴クト云フ上ニ於テ、自作農トナシタ場合ニ、之ニ期待スル所ガ極メテ多イシ、又現在ノ食糧事情カラ見テ、自作農ノ方々ハサウ云フ點ニ付テヤツテ戴ケルノデハナイカ、斯ウ云フコトヲ言シテ居ルノデハナイカト思フノデアリマスガ、先程モ申上ゲマシタヤウニ、此ノ問題ハ重要デアリマスカラ、別ノ機會ニ大臣カラデモ御答へ願フヤウニ致シタイト思ヒマス

限ノ下ニ設置ヲ自由ニ致シテ居ルノデアリマス、今回ノ此ノ改正案ニ於キマシテハ、是等ノニツノ制限ヲイツソノコト廢シマシテ、道府縣農業會が會則デ自由ニ定メテ戴ク、斯ウ云フ風ニ致シタノデアリマス、併シナガラ根本ノ趣旨ハ、先程モ申上ダマシタヤウニ、市町村農業會ノ指導ヲ致シテ參リマス上ニ於テハ、ドウシテモ斯ウ云フ中間的ノモノハ必要デアラウ、斯ウ云フヤウニ考へテ居リマスノデ、道府縣農業會ノ支部ノ設置ト云フコトニ付キマシテハ、我々トシテモ出來ルダケサウ云フ風ニ勸奨シ、又設置ヲ御願ヒ致シタイ、斯様ニ考へテ居ル譯デアリマスガ、法制上ノ制限ハ、先程來申上ゲマスヤウナ意味カラ致シマシテ、之ヲ削除致シタ方ガ宜カラウ、斯ウ云フ趣旨デアリマシテ、三十八條ヲ削除スルコトニ依ツテ、政府ハ支部ノ設置ヲ考ヘナイノデハナイカト云フヤウナ誤解モゴザイマスノデ、ソレ等ノ點ハ篤ト團體方面ニモ其ノ趣旨ヲ明カニシテ、農業指導ノ上ニ於テハ、支部ハ全然不必要ナモノトハ政府ハ考へテ居ラヌ、寧ロ、制限ハ撤廢シタ、自由ノ下ニ於テ出來ルダケ支部ハ設置シテ戴ク、斯様ニ致シテ參リタイト考へテ居リマス

ハ其ノ意味ニ於テ此ノ點ヲ明カニ致シ
タイト思ツタノデアリマス、サウシマス
スト、團體法カラヘ削除スルガ、道府
縣ノ農業會ノ會則ノ中ニ於テハ、此ノ規
定ハ自主的ニ設ケルコトヲ希望スル
ル、歡迎スルト云フ風ニ解釋シテ宜シ
ウゴザイマスカ

マスガ、是ハ團體法ノ制定ト共ニ全部統合シテ支部ニナツタト云フ經過ヲ述シテ居リマスガ、私ハ實際其ノ重要性、必要性ト云フ點カラ言フナラバ、寧ロは昔ノ如ク、支部ト云フモノハナクシテモ、寧ロ郡農業會トシテ之ニ法人格ヲ附與シ、サウシテ自主的、民法上主的ニヤラセル方ガ適切デハナイカト云フ考ヘヨ持ツテ居リマスノデ、此ノ醜ニ付テ参考マデニ伺ツテ置キマス○楠見政府委員 其ノ問題ニ付キマシテハ、團體、特ニ系統組織ノ問題ニ觸レマスノデ、只今ノ所マダハツキリシタ考ヘ方ヲ持ツテ居ラナイノデアリマスガ、考ヘ方ト致シマシテハ、從來ノ考ヘ方ノヤツニ、下カラ段々ト盛上ツテ行ク場合ニ、市町村ト道府縣トノ間ニ一ツノ系統機關ヲ設ケルト云フ下カラ盛上ル考ヘ方トシテハ、サウ云フ考ヘ方モ確カニ一ツノ長所ヲ持ツテ居ルト思フノデアリマス、又從來ノ道府縣農業會ニ、郡支部ノ如ク色々生産上ノ技術其ノ他ノ指導ヲ致シテ參リマスル上ニ於テ、其ノ指導が徹底シ又道府縣農業會ノ一ツノ狙ヒデアリマシタヤウナ各部門別ノ指導ノ綜合性ト申シマスト、道府縣農業會ノ支部トシテ郡農業會ト云フモノヲ設ケル、ソレヲ只シマシタ場合ニ、新タナル問題トシテ或ハ又後者ノ考ヘ方テ以テ郡農業會ト云郡農業會ト云フモノヲ考ヘテ行クカト云フニトニナリマスト、是ハ相當慎重ニ考慮シナケレバナラヌ問題デアラウト思ヒマス、今申シマシタ前後ノ考ヘ方デ見ルカ、或ハ又後者ノ考ヘ方テ以テ郡農業會ト云フモノヲ考ヘテ行クカト云フニトニナリマスト、是ハ相當慎重ニ考慮シナケレバナラヌ問題デアラウト思ヒマス、同時ニ一ツノ農業會トシテ一律のニ郡

農業會ヲ法律上一つノ形態トシテハツ
キリト認メルト云フコトニ付テハ、系
統組織ガソレダケ多クナルト云フヤウ
ナ考へ方モ亦考慮シナケレバナラヌト
思フノデアリマス、是等ノ點ニ付キマ
シテハ、尙ホ十分我々トシテハ研究ヲ
致シタイト思フノデアリマスガ、ソレ
マデハ從來ノヤウナ道府縣農業會ノ
部トシテ見テ行クト云フ風ニ取扱ツ
参リタイト考ヘテ居リマス
○岡田(啓)委員 私ハ御親切ナル御説
明ニ依リマシテ、郡支部ノ規定ハ削除
スルガ、郡支部ハ今日食糧問題ガ最
重要デアルカラ、是ハ自主的ニ設置
ルコトヲ當局トシテモ最モ痛感致シテ
居ルノデアルト云フ風ニ了解致シマシ
テ、質問ハ今日ハ是レダケニ致シ爾餘
ノ質問ハ保留致シタイト思ヒマス、尙
ホ配ツテ貰ツタ圖解ノ中ニ市町村農
業會ト云フ横カラ縦線持ツテ行ツ
テ、ソレニ漁業會ト負債整理組合等ト
云フノガアル、漁業會ト云フノハ農林
中央金庫ノ方カラ續イテ來テ居ルモノ
デアリマスガ、是ハ市町村農業會ノ下
部組織ハナニ、是ハ農林中央金庫ノ
下ノ市町村漁業會トシテ現在存立致
テ居ルノデ、市町村農業會ノ下ニ漁業
會ト云フモノガ系統機關トシテ隸屬シ
テ居ルノデナイト云フノガ事實デスカ
ラ、是ヘ訂正願ツテ置カナイトイケナ
イト思ヒマス、参考マヂニ申上ゲテ置
キマス

マストカ、其ノ外法人ノ任意加入ノ途
ガ設ケラレテ居ルノデゴザイマス、是
ハ法律ノ十五條ニ命令ヲ以テ定ムル法
人デ、行政官署ノ認可ヲ受ケタモノ即
チ法律ヲ以テ定ムル法人トシマシテ
ハ、産業組合、漁業會、漁業組合、負
債整理組合、斯ウ云フヤウナ法人ガ農
業會ノ任意會員トナルコトガ出來ルト
云フ規定ニ基キマシテ、茲ニ點線ヲ書
イタノデアリマス、此ノ任意加入ノ趣
旨ハ、御承知ノヤウニ農業ト密接ナル
關係ニアルト云フヤウナコトカラ致シ
マシテ、其ノ法人ノ加入ノ途ヲ設ケタ
ノデアリマス、隨テ此ノ點線ハサウ云
フ意味ニ於テ書イタノデアリマス、系
統機関トシテハ全然岡田サンノ仰シヤ
ルヤウニ我々モ考ヘテ居リマスノデ、
其ノ點御諒承願ヒマス

方針ヲ持ツテ居ラレルカト云フコトヲ

同ヒシタイト思ヒマス

云フヤウナ所ノ社債ヲ買ハレタ向キニ

考ヘテ居リマスガ、併シ是ハ政府トシ

ニナツテ居ツタコトト思ヒマスガ、其

大體御尋ネシタイト思ヒマス、私ハ福岡縣デゴザイマスガ、他ノ方面ハドウ

○補見政府委員 御答へ申上ゲマス、
御心配ノ點ハ私共モ同様ニサウ云フ事

付テハ、全般的ニ大藏省トシテ此ノ問題ノ處理ニ當ツテ居ル譯デアリマス

テ大蔵省トカ色々ノ方面トノ關係モアリマスノデ、責任アル御答ヘヲ致シ兼

ノ當時ハ馬ハ軍ノ方ノ關係ガアリマス
ノデ、團體統合カラ外サレテ居ツタヤ

カ知レマセヌガ、私ノ方ノ地方ノ市町
村農業會ハ此ノ數年來非常ニ經濟的ニ
經營難ニ陥ツテ居リマス、話ハ細カタ

情ノアルコト承知致シテ居ルノデア
リマス、御承知ノヤウニ、從來農業會
ノ貯金ニ付キマシテハ、出來ルダケ資金

ガ、併シ農林省ト致シマシテモ特ニ此ノ基本ガ單リ此ノ農業會ノ經營ト力何トカ云フコトヨリモ、更ニ臻ツテ一般

○松延委員　更ニ御答辯ハ求メマセヌ
ネルノデアリマス、總務局長トシテハ
左様ニ考ヘテ居リマス

ウニ伺フノデアリマスガ、既ニ現在ニ
ナリマスト、軍馬ノ必要ハナクナツタ
ト思ヒマスノデ、特ニ農耕馬トシテ、

ナルカモ知レマセヌガ、私モ實ハ小サ
イ町ノ農業會長ヲヤツテ居リマス、大
體三百五十萬圓バカリノ預金ヲ持ツテ
居リマシテ、一般的ノ貸付ト云フモノ
ハ殆ドゴザイマセヌ、詰リ戰時ニ依リ
マシテ產業資金ト云フモノガ殆ド不必
要ニナツテ居リマス關係上、金融機關
ノ一斑ヲ受持ツテ居ル農業會トシテノ
機能ガ殆ド杜絕シテ居ル形デゴザイマ
ス、二百五十五萬圓ノ預金ノ中約百万圓
ハ縣農業會ニ預金シ、約百五十萬圓即
チ限度ノ許ス限り有價證券ヲ買入テ
居ルノデアリマス、サウシテ其ノ利鞘
ニ依リマシテ、漸ク經營ヲ立テ居ル
ト云フナウナ實情ニナツテ居ルノデゴ
ザイマス、而モ鑄鐵、東拓等ノ社債ガ
相當部分ヲ占メテ居ル、是ガドウナル
カト云フコトニ付キマシテハ、非常ニ農
業會トシテ憂慮シテ居ル謂デゴザイマ
ス、固ヨリ斯ウ云フ敗戰ノ豫想セザル
現實ニ直面シマシテ、單ニ地方ノ農業會
會員ノ利害ノコトヲ云々スベキデハナ
イト思ヒマスルガ、若シ其ノ元利、少
クトモ利息デモ配當ガナイト云フヤウ
ナコトニナレバ、忽チ經營難ニ陥ルト
云フヤウナコトニナツテ來ルノハ、火
ヲ賭ルヨリモ明カデゴザイマス、多ク
ノ會員カラモ此ノ點ニ付テ色々質問ヲ
受ケルノヂゴザイマス、私等トシテハ
全タ見當モ付キマセヌ、之ニ付テ大體
ドウ云フ風ナコトニナリマスルカ、又
政府トシテドウ云フ風ナ御考ヘデゴザ
イマスカ、若シ御伺ヒ出來ルナラバ御

ノ集中、申シマスカ、中央ニ資金ヲ集メマシテ、ソレヲ農林中央金庫デ出来ルダゲ有利ニ運用スル、斯ウ云フ建設ニアツタノデアリマス、此ノ趣旨ハ、勿論地方ニそ個々的ニハ一般ノ経済事情ニ詳シ首脳者モ居ラレルノデアリマスガ、併シ全般ヲ通ジテ見マスト、國内事情ニ明ルクテモ、或ハ國外事情ニハサウ精シクナイト云フヤウナコトモアリマスルシ、得テシテ此ノ資金運用ニナツテ参リマスト、經理面デ出来ルダケ稼ガウト云フコトハ、經理者トシテ當然ノコトデアリマスノデ、其ノ考ヘ方ガ少シニモ逸脱シテヒドクナツテ参リマスト、其處ニドウシテモ危険性モ伴ツテ來ル、ソコデ最初ニ申上ゲマシタヤウニ、出來ルダケ貯金ニ付キマシテハ資金集中ノ方針ヲ執リ、更ニ組合金融統制會等ヲ設ケマシテ、中央地方デ御相談相手ニナツテ居ツタノデアリマス、サウ云フ御相談ノ體制ヲ持ツテ居リマシタケレドモ、併シ其ノ御相談ニモ乘ツテ懶カズニ、自由ニ運用ヲセラレタ向キモアル譯デアリマス、ソコデ只今御述ベニナリマシタヤウナ比較的確實ナ、公債ト餘り變ラナイアリマス、獨リ國外ダケデナク、國內モアリマスルシ、又中ニハ少々危險性ノアルモノヲ買ハレタ向キモアル譯デヤウナ信用度ノアル社債ヲ取ラレタ所モアリマスルシ、又中ニハ少々危險性ス、併シ今御述ベニナリマシタヤウナ國外ノ支那或ハ満洲朝鮮、斯ウ

○ 楠見政府委員 具體的ニ此ノ會社ハ
ドウカト云ソコトニナリマスト、私モ
ハツキリシタ責任アル答辯ハ致シ兼ネ
ルノデアリマス、唯併シ總務局長トシ
ザイマス、ソレ等ノ點ニ付テ出來ルダ
ケノ御明示ガ願ヘレバ幸ヒト思ツテ居
ル譯デゴザイマス

○ 松延委員 端的ニ御尋ネシマスガ、
現實ノ問題トシテ満鐵トカ東拓トカノ
社債ノ問題デゴザイマス、率直ニ申シ
マスルト、安心シテ居ヌテ然ルベキ
カ、ソレトモダマ見透シガ付カナイト
云フヤウナコトデゴザイマセウカ、今
サウ云フコトヲ御尋不スルノハ、或ハ無
理カモ知レマセヌガ、零細ナル會員ト
シテ非常ニソレラ憂慮シテ居ルノデゴ
ザイマス、ソレ等ノ點ニ付テ出來ルダ
ケノ御明示ガ願ヘレバ幸ヒト思ツテ居
ル譯デゴザイマス

○ 楠見政府委員 具體的ニ此ノ會社ハ
ドウカト云ソコトニナリマスト、私モ
ハツキリシタ責任アル答辯ハ致シ兼ネ
ルノデアリマス、唯併シ總務局長トシ
ザイマス、ソレ等ノ點ニ付テ出來ルダ
ケノ御明示ガ願ヘレバ幸ヒト思ツテ居
ル譯デゴザイマス

是ハ慎重ニ、又其ノ立場ニ立ツテ此ノ
處理ノ問題ヲ考へナケレバナラヌト思
フノデアリマシテ、隨テ大臣モサウ云
フ積リデ居ラレマスルシ、我々事務ノ
方ト致シマシテモ、是等ノ資産ノ凍結
ト云フコトニ依ツテ農民ガ苦シミ、又
農業會ガ其ノ經營ノ上ニ於テ大キナ支
障ヲ來スト云ソヤウナコトノナイヤウ
ニ、出來ルダケノ善後措置ヲ講ジテ參
リタイ、斯様ニ考へテ居リマス、ドウ
ゾ御諒察願ヒマス

ガ、御意思ノアル所十分分ば聽致シマシタ、何レニシマシテモ、地方ノ零細ノ預金ヲ吸收シテ、大體ニ於テ上級團體ノ指示等ニ依シテ下級ノ農業會が其有價證券ヲ買入レタ向モアルト思ヒマス、隨て是ハ寧ロ大藏大臣等ノ所管ニ屬スルヨコトカモ知レマセヌガ、出來ル限り不測ノ損害ガ農民ニ及バヌヤウニ、萬全ノ御努力ヲシテ戴クヤウニ希望致シテ置キマス、是デ私ノ質問ハ打切リマス

○別所委員 關聯質問ナス、只今松延サンカラノ御尋ネノ問題ハ洵ニ重大ナシ問題デゴザイマシテ、殊ニ農業團體法ガ改正セラレテ、茲ニ新タニ理事監事等ノ機關ガ設ケラレマス時ニ際シマシテハ、其ノ首脳者ヲ得ル點ニ付キマシテ、非常ニ重大ナ支障ニナル問題アリマス、只今政府委員ノ御答辯デハ、共安心スルヨコトガ出來ナイ譯デアリマス、恐らく全國總テノ農業會、殊ニ町村農業會ノ會員ハ、少シモ今日マデ御見透シフ此ノ委員會ニ於テ御示シ下ノ不安ヲ除去スルヨコトガ出來ナイ、ドウツ委員長ニ於カレテ、願クバ此ノ問題ニ付テ大藏當局ヨリハツキリシタス、恐らく全國總テノ農業會、殊ニ町村農業會ノ會員ハ、少シモ今日マデ御見透シフ此ノ委員會ニ於テ御示シ下ノ不安ヲ除去スルヨコトガ出來ナイ、ドウツ委員長ニ於カレテ、願クバ此ノ問題ニ付テ大藏當局ヨリハツキリシタス、サルヤウ御骨折ヲ願ヒマス

○北委員長代理 承知シマシタ、其ノヤウニ取計ヒマス——次ハ安孫子孝次君

或ハ輶馬トシテ、何レモ農業者ガ生産
スルモノデ、農業經營ト密接ナ關係ガ
アルノデアリマスカラ、是ハ寧ロ農業
會ニ統合サルベキダト考ヘテ居リマシ
タガ、第八條ノ各項ガソレハ、其ノ儘
残ツテ居リマス理由ハドウ云フ譯デス
カ、ソレヲ御伺ヒシタイト思フノデア
リマス

○補見政府委員 馬ノ團體ニ付キマシ
テハ、統合ノ際ニ、軍馬關係ガアリマ
ス爲ニ、農業會ノ統合カラ避ケタト云
フコトデアリマスガ、ソレハ確カニ今
御述ベノヤウニ一ツノ大キナ理由デア
ツクノデアリマス、隨ヒマシテ今回軍
馬關係ガナクナリマシタ今日ノ狀態ニ
於テハ、其ノ一ツノ最そ大キナ理由ガ
取レタノデアリマスカラ、今回ハ其ノ
中へ入レタラドウカト云フコトモ、ヤ
ハリ一部ノ方カラハサウ云フ意向モア
ツタノデアリマス、併シ私共ガ考ヘテ
見マスノニ、問題ハ畜產、特ニ馬產ト
一般農業經營トノ關係デアリマスガ、
馬ノ團體ト農業會トガ三重ト申シマス
カ、指導部ガ重複スルコトニナリマス
ト、農民トシマシテハ非常ニ迷惑スル
譯デアリマスガ、併シ馬ヲ此ノ中ニ入
レルコトニ依リマシテ、專業ノ馬產
家、或ハ又輶馬業者モ、同様ニ農業會
ノ會員トシテ一括シテ行クコトガ宜イ
カドウカト云フコトニナリマスト、尙
ホ此ノ點ハ研究ヲ要スル事項デアラウ
ト思フノデアリマス、ソコデ結論ト致
シマシテハ、現行通りニ馬ノ團體ハ其

アリマス、獨り國外ダケドナク、國內
デモサウ云々問題モアルヤウデアリマ
ス、併シ今御述ベニナリマシタヤウナ
國外ノ——支那或ハ満洲、朝鮮、斯ウ

鐵、東抜ノ如キ國家機關ニ近イヤウナ組織デアツタモノニ付テハ、當然是ハ先程申上ゲマシタヤウナ趣旨デ考慮サレテ然ルベキモノデハナイカ、斯様ニ

君
○安孫子委員 私ノ御伺ヒシタコトニ付テデアリ マハ、事團體ノコトニ付テデアリ、マハ、是ハ纏ニ團體統合ノ時ニモ、問題無

カドウカト云フコトニナリマスト、尙
ホ此ノ點ハ研究ヲ要スル事項デアラウ
ト思フノアリマス、ソコデ結論ト致
シマシテハ、現行通ニ馬ノ團體ハ其

第六類第三號 楊某因體法中改正法律案外一件委員會議錄 第二回
昭和二十年十一月十日

ノ體一致シテ置キマシテ、此ノ問題付
テハ、尙ホ慎重ニ考究ヲ重ネテ參ルコ
トニ致シタイト存ズルノデアリマス
ガ、ソレマテノ間ニ於キマシテハ、馬
ヲ持ツテ居ル農民ニ對シマシテ、此ノ
指導ガ兩團體カラ二元的ニ行クコトノ
ナイヤウニ、運用ノ方面ニ十分研究考
證フ致シテ、其ノ不便ノナイヤウニ致
シタイン、サウシテ根本的ナ團體ノ問題
ニ付キマシテハ、只今申シマシタコウ
ナ趣旨カラ致シマシテ、尙ホ研究ヲサ
シテ載キタイ、斯ウ云フ意味デ今日ハ
此ノ中ニ入レナカツタノニアリマス
○安孫子委員 今ノ御話ハ尤モノヤウ
デアリマスケレドモ、馬ノ殆ド大部分
ハ、農業者ノ取扱フモノニアリマシ
テ、極メテ少數ノモノガ農專門ノ馬産家
ニナツテ居ルノデアリマス、又都市ノ
輶馬ト云フモノハ、無論是ハ生産者デ
ハナノイノデアリマシテ、農民ガ馬ノ生
産育成ナドト云フモノニ力ヲ入レルノ
デアリマスカラ、十分御研究ヲ願ヒマ
シテ、出來ルナラバ是ハ農業會ニ統合
シテヤル方ガ、適切ナ生産育成ノ指導
運用ガ出來ルト考ヘテ居リマスノデ、
此ノ點御考究ヲ御願ヒ申上ゲタイト思
フノアリマス

ス、之ニ附隨シテ色々統制ノ規則ト
カ、或ハ政府ノ從來ノ指導トカニ、切
替ヲ要スル點ガ多クアルコトと思フノデアリ
マス、之ニ對シマシテハ、恐ラクハ
大臣モ或ハ事務當局ニ於テモ、ソレ
ゾレ御用意ガアルコト思フノデアリ
マスガ、サウ云フ點ニ付テ御尋不申上
ゲタイト思フノデアリマス

漠然トサウ申上ゲマシテモ、餘リニ
廣汎ニナリマスノデ、少シシ、項ヲ分
ケマシテ御尋不申上ゲタイト思フノデ
アリマス、第一ニ農業團體ガ今直面シ
テ居リマスル最モ重要ナル責務ハ、米
其ノ他ノ農產物ノ集荷、供出ノ問題ダ
ト思フノデアリマスガ、現在總力ヲ擧
ゲテ懸命ノ努力ヲ拂ツテ居リマスル
ガ、實績ハ必ズシモ宜シイトハ申上ゲ
ラレナイヤウナ狀態アルゴトハ、御
承知ノ通リデアリマス、其ノ不振ノ原
因ト致シマシテハ、色々言ハレテ居ル
ノデアリマスガ、從來ノヤリ方ガ惡イ爲
トカ、或ハ又案外今年ノ作柄ガ惡イ爲
ニ、割當ニ比ベマシテ生産量ガ少ク、
供出上甚ダ困難ナ狀欲ニアルトカ、或
ハ農家ノ供出ニ對スル意慾ガ低下シタ
トカ、色々言ハレテ居リマスガ、次ニ
申上ゲル事項モ重要ナ原因ト思フノデ
アリマス、其ノ一ツハ賣出部隊ノ横行
ニ伴フ所ノ闇ノ横流ノ問題デアリマ
ス、此ノ量ガ決シテ少ナクナイト思ヒ
マス、是ハ詳シク申上ゲナクテモ十分
御分リノコトデアリマスカラ 説明致シ
マセスガ、「トラック」ニ依ツテ隨分多
量ニ持ツテ行ク、或ハ地方ニ依リマシ
テハ數々人ノ團體以テ生産地ニ參リマ
シテ、強要シテ持出スト云フヤウナコ
トモアルヤウナ狀態デアリマスノデ、
是デハドウシテモ供出ガ十分デナイト思
フノデアリマス、之ニ對シテハ其ノ

ト云ヒマスカ、農業者モ買出スル人モ徹底的ナ取締ヲシナケレバナラヌト思フノデアリマスルガ、ドウモ今マデノ取締ハドツカト云フト餘リニ緩慢モ、是別ニ大シタ悪意コトデナイヤウナ考ヘニナツテ居ルヤウナ状態ニナツテ居ルト思ヒマス、是デハドウシテモ供出方出来ナインデアリマシテ、此ノ際茲ニ政府ノ嚴然タル態度ガ、明カニナツテ居ナケレバナラヌト思フノデアリマスガ、今ノ私共ノ北海道地方ノ如キハ、買出シナイ者ハ却テ損スル、闇デ賣ラナイ者ハ馬鹿ヲ見ルト云フヤウナ觀念ガナイトハ言ヘナイ、ドウシテモ是ハ嚴然タル態度ガ必要ト思フノデアリマス、私ハ決シテ同情スベキモノヲ取締レトハ申上ゲナインデアリマスケレドモ、大口買出、或ハ「ブローカー」式ニ何回モ、買漁ルヤウナモノ、或ハ買潤ラスルヤウナモノハ、是ハ取締ラナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、併シ如何ニ取締リマシテモ、之ヲ防ダコトハ困難ダト思フノデアリマシテ、結局ハ私ハ農業者ノ協同組合アル所ノ農業會ト、消費者ノ團體ト直結サセル、消費者ノ方ト致シマシテハ消費組合、協同組合ト云フモノヲ作ラセマシテ、ソレヲ直結スルヨリ外ニ方法ガナイト考ヘテ居ルノデアリマス、昨今各地方ニ消費組合ガ澤山出來テ居リマスガ、是ハ多クハ申合セ組合ニハ協同組合法ト云フヤウナ法的根據ヲ與ヘラヤラレルコトガドウカト思フノデアリマス、之ニ對シテ體秋大臣ノ御考へハドウデアリマスカ、御伺ヒシ

ソレカラ第二ニ、農業者ハ現在ニ於キマシテハ、生産資材モ生活資材モ、非常ニ高價ナ閻値ト更ニ農産物ノ提供ナシデハ入手出來ナイヤウナ狀態ニアリマス、是ハ前日預算委員會ニ於テモ農林大臣が御述ベニナツテ居ラレルノマスガ、ドウシテモ是ハ農家ノ必要ナ物資ヲ、公定價格ヲ潤滑ニ入手出來ルヤウニサセルコトガ、供出促進上絶對ニ必要デアルト思フノデアリマス、政府ニ於カレマシテハ、目下供出ト睨ミ合セマシテ、衣料或ハ肥料等ノ物資ヲ重點的ニ配給スル方途ヲ講ゼラレマシテ、其ノ若干ハ既ニ農家ニ入ツテ居ルヤウニ聞イテ居ルノデアリマスケレドモ、併シ斯ウ云フコトヲ聰明サレタ時ニモ、農家ハ政府ノ證明ニ信用ヲ置力ナイノデアリマス、新聞ニ出スヨリハ先づ品物ヲ持ツテ來イト云フヤウナコトヲ放言スル者ガ多クアルヤウナ狀態ニアリマス、實ハ此ノ必需物資ヲ一元的ニ配給シテ、農家ニ公定價格ヲ以テ配給出來ルヤウニスルト云フコトハ、是ハ多年ノ懸案デアリマスノデ、既ニ前内閣ノ當時ニ於キマシテモ——先刻農林大臣ハソレワ農業會奉シテ一元的ニ配給スルト云フヤウナコトヲ發表サレテ居ツタノデアリマスガ、其ノ當時ハ農業者モ農事ノ指導者モ大イニ喜ビマシテ、供出ショウト云フヤウナ空氣ヲ昂揚シタノデアリマス、所ガ間モナク色々ナ事情ニ依リマシテ、ソレガ馳自ニナツタ爲ニ、又政府ハ我々ヲ騙シタト云フヤウナコトニナリマシテ、オヤリニ酒ヲ感ジテ居ルヤウナ狀態デアリマス、ソレデアリマスカラ、今回大臣ガ非常ニ御苦心ニナリマシテ、オヤリニ

ニ持ツテ來ナケレバ、又同ジコトガ繰返サレルダラウト云フヤウナ氣持ヲ持ツテ居ルノデアリマス、併シ非當ナ御熱心ナ労努力ニ依リマシテ、相當ノ物資ガ農村ニ入ルコトニナルコトハ、何ヨリモ喜バシイコトデアリマシテ、之ニ依ツテ供出モ段々ニ促進サレルコトト思ヒマス、併シ私ハ一步進メマシテ、斯ウ云フ制度ヲ確立致シテ戴キタイノデアリマス、農業會ヲ通ジマシテ、一元的ニ公定價格ヲ以テ農業者ニ配給スルト云フ制度ガ確立スルコトニ依リマシテ、初メテ農業者ハ安心致シマシテ、自分モ亦公定價格ヲ以テ供出スルト云フヤウナ氣持ニナリ得ルト思ブノデアリマス、是ガハツキリシナイト、ヤハリ一時ノ便法デヤツテ居ルノデハナイカト云ソヤウナ譯デ、今マデノコトガ結果ニ於テ不信的ナ行爲ニナツタノデアリマス、動機ニ於テハ其ノコトハナカツタ思ヒマスガ、結果ニ於テハ遂ニ農業者ヲ騙シタ云フコトニナツタノデアリマス、サウ云フモノノ信用ヲ取返ス爲ニハ、ドウシテモサウシナケレバ、ラスト思ヒマスケレドモ、此ノ點ニ對スル農林大臣ノハツキリシタ御答辯ヲ戴イテ置キタイト思フノデアリマス、即チ農産物ノ生産上必要ナル生産資材ト、農家ノ生活上必要ナル必需品ノ配給ノ爲ニ、生産供出ノ責任機関タル農業會系統ニ依リ、一元的配給ノ制度ヲ確立シテ戴キタイ、之ニ對スル大臣ノ御答ヘヲ戴キタイト思フノデアリマス

リマシテ、農産物ヲ政府デ買上ゲル場合ニ於キマシテモ、民間需要者ノ手ニ
入る場合ニ於キマシテモ、必ズ是等ノ
統制機關タル諸會社トカ或ハ肥料會
社、衣料統制會社、漆粉統制會社等ノ
單ナル企業統制機關ノ手ヲ經由シナケ
レバナラヌヤウナ狀態ニナツテ居ルノ
デアリマス、隨ア徒ラニ手數ヲ要シ、
又其ノ間ニ經費、手數料等ノ負擔力生
ズルコトハ當然デアリマス、是ガ農
業者ノ心ニ割切レ難イ感ジヲ與ヘテ居
ル所ノ理由デアリマス、隨テ生產竝ニ
供出ノ意欲ヲ低下シ、加之農業會ノ自
主的活動ヲ甚ダシク妨げテ居リマシ
テ、食糧ノ増産上好マシカラヌ結果ヲ
生ジテ居ルコトハ、既ニ周知ノコトデ
アリマス、就中諸會社ニ對スル非難ハ
到ル處ニ多インデアリマシテ、此ノ點ハ
農林大臣も十分御承知ノコトデアルト
思ソノデアリマス、又食糧營團ノ如キ
モ、都市ハ別ト致シマシテ、農村ニ於
キマシテハ其ノ仕事ヲ全面的ニ農業會
ハ、農業會カラ政府ヘ直接納入スルヤ
ウナ方法ヲ執ラレテハドウカト思ヒマ
ス、ソレ以外ノモノハ直接需要者
ニ——例へバ中小工業者ハ配給ベキ所
ノ原料タル農產物ノ如キハ、是等中小
工業者ノ協同組合ト云フヤウナモノヲ
作ラセマシテ、ソレニ農業會カラ直接
配給スルト云フヤウナコトハ、或ハ蔬菜
青果物ノ如キハ、消費者ヲシテ協同組
合ヲ作ラセマシテ、サウシテ農業者ノ
協同組合タル農業會ト直接手ヲ握ラン
メルト云フコトニシタナラバ、ドウカ
ト思フノデアリマシテ、是ハ他ノ生產
物ニ付テモ同様ナコトガ言ヘルト思フ

トハ、官治統制機關タル農村關係ノ國策會社ハ之ヲ廢シテハトウカ、此點ニ付テ御伺ヒ申上ゲタイト思フノデアリマス、以上三點ニ付テ御答ヘヲ難キタ
イト思フ次第アリマス
○松村國務大臣 御尋不ニ對シテ御答
ヘヲ申上ゲマスガ、第一ノ供出ノ問題

ノ前途ハサウ悲觀スベキデモナク行キ得ル、況ヤ輸入ノ途モ原則的ニ開カレ、又今後モ輸入ノ數量ニ付テ要請ヲ致シツ、アルノデゴザイマスカラ、是ガ云フモノヲ得ルコトガ出来ルト思ヒマシテ、兩方相俟ツテ供出ノ效果ヲ繋ゲタイモノト考ヘテ居ルノデゴザイマス。

ヒマスノゾ、之ヲ取ラウト思フノデゴザイマス
ザイマス、唯一元の配給ト云フ言葉ニ
付キマシテ、私ハ多少詫釋ヲ要スル所
トト考ヘテ居ルノアリマス、即チ農業者
業者ニ對シテハ、好ムト好マザルトニ拘
ラズ農業會ダケカラシカ物ヲ買フコトハ
出来ナイト云フ制度ハ、私ハ餘程考
モノニアラウト思ヒマス、農業者ノ選
ブ所ニ依ツテ、農業會カラモ求メラレ
ルシ、又物ニ依ツテハ小賣商人カララ
求メ得ル、斯ウ云コトニシテ一向差
支ヘナイノミナラズ、其ノ方ガ兩者ノ
間ニ競争ガアリ、競争ノアル所ニ良
品物ヲ選擇シ、之ヲ勉強シタ値デ買
ルト云コトガアルノデゴザイマシ
テ、農業會ダケニシカ途ヲ開イテ置キ
マセヌスト、ソコニ事ガ沈滯ナシ不動
強ニナリ、サウシテ農業者ノ利益ニ
ラナイコト思ヒマスノデ、是ハ農林
省トシテハ主トシテ農業會ヘ物ヲ流
マスガ、併シ別ニ商人ガ地方ニ於ア店
舗ヲ開イテ同ジ品物ヲ賣リ、農業者ガ
ソレカラ物ヲ買フト云フコトハ、決シ
テ妨ゲルニ及バナイ、寧ロソレアルガ
爲ニ農業者ハ選擇ノ自由ヲ有シ、サウ
シテ其ノ結果トシテ農業會ノ勉強七段
段向上シ、互ヒニ切磋琢磨シテ農業會
ノ健全ナ發達ヲ其ノ面ニ於テ遂ゲルコ
トガ出來ルノゾハナカラウカ、斯ワ云
フ風ニ考ヘテ居ルノデゴザイマス、一
般的ト云フ言葉ニ付キマシテ私ノ今申
シマシタヤウナ意味ナラバ、御話ハ云
然賛成デゴザイマス

スカラ、何分今日マデズツト強ク統制シテ來テ居リ、市場ガソレニ憤レテ居リ、其ノ後ノ過渡の措置ヲ要スル點モアリマスノデ、先づ其ノ用意ノ出來タモノカラ外ス、斯ウ云フコトニ致シテ、續々今日マデ外シテ居ルノデゴザイマス、今後モ其ノ方針ヲ以テ進ミタ伊ト存ジテ居ルノゴザイマス、食糧營團ト農業會トノ結付キ、配給ヲ農業會デヤラシタラドウカト云フ御話ハ、一種ノ農村ノ輿論ノヤウニ聞イテ居ルノデアリマシテ、此ノ點ニ付テハ篤ト研究ヲ致シテ此ノ問題ヲ最モ良形ニ解決致シタイト存ジテ居ル次第ニアリマス

マス、ソレデ明年ノ生産計畫ニ對シマシテハ、十分ニ注意ヲシテ萬全ヲ期スケレバナラスト信ズル次第アリマス、即ち適地適作ハ農業經營ノ鐵則デニ農業ハ自然ニ支配ナル、ノダアリスカラ、飽クマデモ立地的ナモノデナ種類ヲ選ビ、其ノ地方ニ最適ノ耕作法、經營法ニ依ツテ農業經營ヲスルコトハ勿論デアリマス、然ルニ現在マデハ臨時農地等管理令ニ依リマシテ、農產物ノ種類等ガ決定サレマンシテ、作付ノ制限禁止ト云フヤウナコトガアリマスノデ、是ガ爲ニ自由ニ作付ガ出來ナイト云フヤウナ事實ガアルノデアリマス、例ヘバ北海道等ニ於キマシテハ、不毛ノ水田デアツテモ、之ヲ堀地ニ還元スルコトガ出來ナイト云フヤウナコトガレ、少シ位ノ栽培、默認シテ居ルヤウデアリマスケレドモ、結局肥料ガナケレバ米ノ生產ニ影響スルコトニナルノデアリマス、サウ云フ點ハ地方ノ實情ニ應ジテ最モ有益ナ生産方法ガ考慮セラル、ノダアリマスカラ、其ノ考ヘニ依テヤリ得ルヤウナ狀態ニシナケレバナラヌノデアリマス、又農業生産統制令ニ依リマシテ市町村農業會ハ、其ノ生産計畫ヲ立テマシテ届ケ出ルコトニナツテ居ルノデアリマス、是ハ計畫ヲ

シテ居ルナウニ見ニマスケレドモ、事
實ハ地方長官ガ、必要アリト認メル時
ニハ、計畫ノ實施又ハ變更ニ關シテ必
要ナ命令ヲナシ得ルト云フコトニナツ
テ居リマスノヂ、實際ノ生產計畫ハ政
府當局ノ方針ニ基キマシテ、地方長官ノ
強力ナル指示ノ下ニ致シテ居ル次第デ
アリマス、是ガ爲ニ生產計畫ガ天降リ的
ノ作付計畫ニナツテ居ルヤウナ部分ガ
認メラレルノデアリマス、隨テ其ノ土
地ニ適シナイ又經營上困難ナ作物モ作
付シナケレバナラズト云フコトニナ
ル、隨テ適地適作ノ原則ニ反スルノミ
ナラズ、特ニ地力ノ維持培養ノ上ニ於
テ遺憾ナ點ガ多々アリマス、隨テ或ル
者ハ形式的ニ種ヲ播イテ、其ノ後ノ手
入レヲシナイ、サウ云フ狀態ガ退ニシ
於テハアツタノデアリマス、私ハ此ノ
際斯カル法令ヲ廢シテ、飽クマデモ農
業會ト農業者ノ自由意思ニ依ル選擇ニ
依リマシテ作付計畫ヲ立テサセルコト
ガ適當デナイカト思フノデアリマス、
勿論農業者ガ勝手ニ何ヲ作ツテモ宜イ
ト云フノデナク、懸念適切ナ指導獎勵
ニ依ツテ、地方々々ノ實情ト國家ノ要
請ヲ睨ミ合セマシテ適當ナ作付計畫
ヲ立テラレコトガ、生産ヲ増強スル
上ニ於テ、非常ニ必要ナコトと思ヒマ
ス、ノミナラズ斯ウ云フ肥料不足ノ場
合ニ於テ、特に北海道ノ如ク肥料ヲ必
要トスル地方ニ於テハドウシテモ將來
地力ノ培養ヲ考ヘテ、作付ヲシナケレ
バナラヌノデアルカラ、サウ云フ場合
ニ於テモ好都合ニ參ルト思ヒマス、又
セウ自由ニセセルト、國家方要請スル
食糧ヨリハ、徒ラニ高價ナ、收益ノ多
イモノヲ作付スル處ガナイデモアリマ
ス、ノミナラズ斯ウ云フ場合

ニ付テハアトカラ御尋ネ申シマスガ、
或ハ必需物資ノ配給ナドト睨ミ合セマ
シテ、飽クマデモ指導的立場ヲ以テ、
其ノ實現ヲ期スルコトガ宜シトイ思ヒ
マス、却テ其ノ方ガ政府ノ期待ニ副ヒ
得テ、生産増強、供出ノ上ニ、效果ヲ
齎スモノト私ハ信シテ居リマス、私ガ
申上ケリイコトハ農業者ノ責任ニ基ク
生産計畫ヲ、各地ノ實情ト適地適作ニ
即シタ計畫ヲ立テサセ、ソレヲ基礎ト
シテ政府ノ綜合計畫ヲ立て、積極的ニ
農業者ノ自主的活動ヲ活潑ナラシムル
方ガ適當アラウト思フノデアリマ
ス、隨テ總動員法ノ廢止ニ伴ヒ、或ハ
臨時耕地等整理古キ農業調整ノ方廢止
サレルト思ヒマスガ、之ニ對スル大臣
ノ御所見ヲ伺ヒタイ

タイノデアリマス、價格ノ問題ハ極メ
テ重要デアリマスガ、又極メテ困難ナ
顯デアルノデアリマシテ、又極メテ複雜ナ
物ノ生產増強、供出ノ促進ト云フ方面
カラ價格問題ニ對シテ御尋考申上ゲタ
イト思フ次第デアリマス、農家ノ經濟
ハ農產物ノ價格ト、一般ノ生產資材竝
ニ生活必需品ノ價格トノ均衡如何ニ關
係スルコトガ極メテ大キイノデアリマ
スガ、從來カラ農產物ハ一般物價ニ比
ベマシテ安キニ過ギルト云フ狀況デア
ツタノデアリマス、是ガ爲ニ農家經濟
ヲ窮迫セシメタ事實ハ、是ハ何人モ認
メ居ル所デアルト思フノデアリマ
ス、明治維新以來我ガ國ノ經濟產業
文化ノ發達ハ農業者ノ犠牲ニ依ツテナ
サレタト云ハレ居ルノデアリマス
ガ、私ハ其ノ通リデアルト思ツテ居ル
ノデアリマス、元來我ガ國ノ農業ハ全
ク家族的企業デアリマシテ、所謂生業
デアリマス、隨テ其ノ經營ニ於キマシ
テモ、其ノ生活ニ於キマシテモ、極メ
テ彈力性ガアルノデアリマス、ソレデ
アリマスカラ、洵ニ低廉ナル農產物ノ
價格ニモ甘シジマシテ、他ノ商工經濟
ノ爲ニ常ニ壓迫ヲ受ケナガラモ、ドウ
カスウカ經營ヲ繼續シ來ツタノデアリ
マスガ、今日テハ最早ソレガ許サレナ
イ時ニナツタト思フノデアリマス、殊
ニ民主的國家建設ノ上ニモ、公平ナル
價格ガ茲ニ決メラレナケレバナラヌト
思ソノデアリマス、又斯様ナ意味合ニ
於キマシテ、農家ニ對シマシテ、其
ノ努力ニ相當スル代價ヲ農產物ノ價格
メテ確乎タル經濟ノ上ニ於チ農業者ハ
農業生產ニ精進ガ出來ルト思フノデア

リマス、現在ニ於キマシテモ、農産物ノ公定價格ハ一般ノ他ノモノニ比シテ著シク安い、思ヒマス、隨て當然支拂ハルベキ所ノ代價ガ農家ニ支拂ヒ得ナイト云フヤウナ狀態ニナルト思フノデアリマス、ソレデ從來ノ儘補助政策トカ、助成政策トカ云フヤウナコトデ引摺ツテ來タト云フヤウナ狀態ニアルノデハ、是ハ全ク封建的ナ性質ヲ多分ニ帶ヒテ居ルノデアツテ、決シテ民主的ナ政策ト言フコトハ出來ナイト思ノノデアリマス、斯様ナ次第アリマスノデ、私ハ是ハ自作農ヲ創定サレテモ、或ハ農業者ノ自主的活動ノ爲ニ國體法ガ規定サレマシテモ、此ノ問題ガ適正ニ行カナケレバ、下カラ盛り上ル所ノ農業者ノ努力ト云フモノハ、之ヲ期待スルヨトハ出來ナイト思ソノデアリマス、然ルニ一方現在ニ於テハ闇値方法外ナ高價ヲ呼ンデ居リマシテ、一俵ノ公定價格ト一升ノ闇値ト比較シテ、寧ロ一俵ノ公定價格ガ安イト云フヤウナ狀態ヲ示シテ居ルヤウナ現状アリマシテ、是デハ農業者ヲシテ安心シテ農業經營ニ精進サセルト云フコトハ不可能アリマス、ソコデ此ノ際速カニ此ノ農產物ノ各種類間ノ價格ノ均衡ト、農產物ト他ノ物價トノ價格ノ均衡ヲ圖ラネバナラヌト思ゾノデアリマス、特ニ北海道ノ如キ畑作ヲ主トスル地方ニ於キマシテハ、農產物ノ種々間ノ價格ニテ均衡ガナケレバ、適地適作主義ソレダケ生産ガ劣ルト云フコトニナルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、農產物ノ價格政策ニ對シマシテ、トウ云フ御用意ガアルカ、之ヲ御伺ヒ申上

ゲタイト思ヒマス

○松村國務大臣 物價ノ問題ハ是ハ非
常ニ困難ナ問題デアリマス、之ニ付キ
マンテハ、日本ノ將來ノ經濟機構ガ
ウ云フ風ニナルカト云フ根本ノ問題カ
ラ來ル譯デアリマスガ、併シナガラ日
本ノ經濟機構ノ問題ハ、是ハ世界ノ風
潮ヲ受ケルコトガ多イ譯デゴザイマス
カラ、世界ノ風潮ヲ見マスル時ニ、日
本ノ將來ノ經濟機構ノ行クベキ途ヨリ分
ルト思フノデアリマス、サウ云フ意味
合カラ申シテ、將來ハドウ變ルカ知リ
マセヌガ、現在ノ所ニ於キマシテハ、
此ノヤウナ窮屈ナ「ドウツ式ト云フカ
ドウカ知リマセヌガ、統制經濟ノ基礎
ニ立ツ價格統制ト云フモノガ、ドウセ
此ノ儘デ行カナイコトハ是ハ當然ノコ
トデアリマス、農產物價モ同様アリラ
ウト思フノデアリマシテ、今日ハ其ノ
變革ノ過程ニアルト考ヘマス、將來ノ
見据ニ付テハ、サウ云フ狀態デアリ
マシテ分リマセヌガ、併シ私ハ價格ハ
物ニ依クテ達ヒマスケレドモ、大體自
由價格ニ一應ハ還ルモノト考ヘテ居リ
マス、隨て農產物ノ價格ニ付テモ、畢
竟渥イ早イハアルケレドモ、ソコヘ落
著クモノト考ヘテ居リマス、價格ノ
由價格ニ一應ハ還ルモノト考ヘテ居リ
マス、隨て農產物ノ價格ニ付テモ、畢
竟渥イ早イハアルケレドモ、ソコヘ落
著クモノト考ヘテ居リマス、隨ヒマ
ドト云フコトハ、今後或ル程度マデ物
價ガ外サレタ後ニ於テハ出來得ナイコ
合セ、同ジ農產物デモ又其ノ價格ノ
「バランス」ヲ覗ミ合セテ價格ヲ作ルナ
シテ生鮮食料品ニ付テハ、既ニ外シテ
トデアリマスノデ、私はハ自由價格
ニ還ルモノト考ヘテ居リマス、隨ヒマ
ドト云フコトハ、今後或ル程度マデ物
價ガ外サレタ後ニ於テハ出來得ナイコ
合セ、同ジ農產物デモ又其ノ價格ノ
見タノデアリマスガ、恐ラクハ今日值モ
高イノデアリマスガ、此ノ形デ落著ク
所ヘ落著イテ安定ラ得ルモノト思ツテ
居リマス、其ノ基礎ノ下ニ立ツテ考ヘ

マス時ニ、總テノ農産物ヲ規則ヅタメ
デ決メテ置イテモ、是ハ閾値ノ問題ダ
ケデモ到底力ヲ以テ抑ヘルコトハ出來
ナイ問題デアリマスカラ、此ノ點ニ付
テハ、私ハ自由價格へ還ルヨリ仕様ガ
ナイノダ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマ
ス、但シ其ノ中デモ主要食糧ニ付キマ
シテハ、私ハ是ハ絶對ニ國ガ主要食糧
ヲ把握シ、統制シ、サウシテ益々完全
ニ把握シ、主要食糧ノ價格モ政府ノ手
デ握ツテヤツテ行カナクテハナラヌモ
デハナイカ、是ハ食糧問題ノズツト將
來ノコトヲ考ヘ、農村ヲ護持シテ行ク
上カラ考ヘマシテモ、消費者ノ部面ノ
ミナラズ、生産者ノ方カラ言ツテモ、
ドウシテモ持ツテ行カナケレバナラ
ヌ、然ラバ自由價格ノモノト此ノ統制
セラレタ主要物資トノ價格ノ「バランス
」ヲドウシテ取ツテ行クカト云フ問
題ニナリマスガ、是ハ戰爭中ニ消エチ
失セマシタガ、主要食糧ノ統制及ビ價
格ノ公正ニ付テハ、長イ日本ノ經驗ガ
アリマシテ、既ニ或ル程度マデノ完全
トハ申サレマセヌガ、完全ニ近イ標準
ガアツタ譯デアリマス、御承知ノヤウ
ナ譯デアリマシテ、即チ生産費ヲ見、
生計費ヲ見、又物價ノ趨勢ヲ見テ、サ
ウシテソニヨニ年々米麥ノ値ヲ決メテ、
ソレニ頗ル伸縮性ヲ與ヘテヤツテ行
ク、サウシテ他ノ物價ト連レテ行ク、
ソレニ還ルヨリ外ニ私ハ途ガナイト思
フノデアリマス、但シ只今ハ御承知ノ
通り生産費ノ調査ニシマシテモ、基礎
材料ガ悉ク備ハラナイ、其ノ上物價ノ
指數ニシマシテモ、唯机ノ上デ決メラ
レタ公定價格ト云フモノガアルバカリ
デシテ、破ラレタ價格ト云フモノハ幽
靈ヲ追フヤウナ姿ニナツテ居ル譯デア
リマスカラ、急ニ正確ナモノハ得ラレ

マセヌケレドモ、是ガ落著キマシタナニ非ラバ、其ノ形へ還ヘルヨリ外ニ途ガナリ、ソレニ依ツテ價格ノ「バランス」ヲ取ツテ行クノダ、斯ウ云フ風ニ考ヘ居リマス。

○安孫子委員 價格ノ問題ノヤウニ非常ニ大キナ問題ヲ申上ゲテモ、大臣ノ御話ノ通りニ中々困難ナ問題デアリマシテ、私モ今大臣仰シヤツタレウニシテ、考ヘテ居ルノテアリマスガ、併シ當面スル問題ト致シマシテハ、明年ノ食糧ノ増產ト云フヤウナコトニ對シマシテ、價格問題ガ色々反映スルト思フノデアリマス、何トカシテヤハリ主要食糧ヲ増產サセル方途ヲ講ジナケレバナラヌト思ヒマスノデ、結局サツキ申上ゲタヤウニ、一面ニ於テは農家ノ生産資材ト必需資材ヲ出来ルダケ適正化ハレバ、價格ニ配給シテヤツテ、其ノ代リ此ノ主要食糧ハ適當ニオ決メニナツタ價格デ供出スルト云フヤウナ政策ガ行ハレナケレバ、到底増產ガリ來ナイト思フナ次第デアリマス、御話ノ如ク價格問題ハ中々困難デアリマシテ、今之ツ決メテ見テモ又直ニニ變ツテ來ルト云フヤウナ狀態デアリマスノデ、要ハ農家ガ維持出來、經營ガ維持出來ソレニ副ツテ生産ガ出來ルヤウナ狀態ヲ整備シテヤルト云フヤウナ方面ニ力ヲ注イデ行クコトガ必要デハナイカト思フノデアリマス、ソレニ對シテ繰返シテ申上ゲルヤウデアリマスケレドモ、生産資材ト農家ノ必需資材ハ適正ナ價格ヲ以テ、今ノ經濟事情ニ於テ許ス限りニ於テ開削策ヲ強化シテ戴キタイト、私ハ切ニ御願ヒ申上ケル次第アリマス、更ニ私ニ、昔ノヤウニ聞テナク入ルヤウナ政策ヲ強化シテ戴キタイト、私ハ切ニ御願ヒ申上ケル次第アリマス、更ニ私ノ経産加工ノコトニ付テ少シ御尋ネフ

申上ダタイト思フノデアリマス、農村工業振興ニ關シマシテハ、先日大臣御詰ニナツテ居ラレマス通リニ、農村ハ之ニ依ツテ經濟ノ確立ヲ圖ラネバナラヌノデアリマスルガ、特ニ此ノ際御詰伺ヒ申上ゲタイト云フ事項ハ、農產物ハ出來ルダケ加工致シマシテ、「エツツシム」ダケヲ農村ニ搬出スルヤウナ政策ヲ執ラネバナラヌト思ノデアリマス、サウシテ副產物タル所ニ殘滓ハ除キテ、レモ畜産ノ飼料ナリ、又肥料トシテ土地ニ還元サセル、斯ウ行クベキデアルト思フノデアリマスガ、農產物ノ中ニ包シニ居ル成分ハ、窒素、燐酸、カリノ如キ非常ナ肥料分ハ寧ロ殘滓ノ中ニ多イノデアリマシテ、人間ニ必需ナル所ノ含水炭素ト云モノハ却テ内容ノ胚芽ノ中ニアルコトハ申スマデモナイノデアリマスルガ、例へば米ヲ搗精致シマシテモ、白米ノ大部分ハ水ト炭素カラ成ル所ノ含水炭素デアリ、糠ニ酵素、燐酸、カリガ最モ多キ含マレテ民ルノデアリマス、菜種モ同様デアリマス、シテ、油菜ハ含水炭素デアツテ、土地ニカラ吸收ンタ窒素、燐酸、カリハ油ノ滓ノ中ニ多量ニ含マレテ居ルノデアリマスカラ、是等ノ殘滓ハ家畜ノ飼料トシテヤツテ、又肥料トシテ土地ニ還元セセルコトガ經營改善上ニモ、或ハ抽力ノ培養上ニ於テモ最モ大切ナコトデアリマス、之ヲヤラセナケレバ、結局農家ハ貴重ナ米トカ其ノ他ノ穀物ヲ家畜ニヤルト云フコトニナリ、或ハ又貴重ナ大豆ヲ其ノ餽肥料ニ使フト云ナラヌトテアリマス、之ヲヤラセナケレバ、結局農家ハ貴重ナ米トカ其ノ他ノ穀物ヲ家畜的見地ニ立ソテ國ノ農業政策ト云フモノヲ樹ルノデナケレバナラヌトテ恩ノデアリマスルガ、從來ハ此ノ點ニ對シテ缺クル所ガアツタヤウニ思フ

次第アリマス、ソレデ私ハ斯様ナ見
地カラ先ザ米麥等ノ穀物ノ精白ヲ全面
的ニ地元ノ農業會ニヤラセルトカ、サ
ウシテ糠ハ飼料トシ、又肥料トシテ土
地ニ還元ズベキモノデアルト思フノデ
アリマス、斯様ナ意味ニ於キマシテ
モ、米ノ配給ハ寧ロ食糧營團ラナク、
農業會ニ之ヲヤラセル方カ適當デアラ
ウト感スルノデアリマス、特ニ飼料不
足、肥料不足ノ場合ニ於キマシテ、急
速ニ是ノ實現ラシテ戴キタイト思フノ
デアリマス、其ノ他味噌、醬油ノ製造、
製粉、製餽、大豆、菜種、榨油ノ如キ
モ、是等ハ農村振興策トシテ農業會ニ
ヤラセテモ宜シイト思ソノデアリマス
ガ、特ニ斯様ナ考ヘ方カラ行キマシ
テ、私ハ差當リ農村ニ於ケル所ノ食糧
營團ノ事業ハ、之ヲ農業會ニ移譲シテ
戴キタイ、斯ウ御願ヒスルノデアリマ
ス、之ニ對シマシテハ先程大臣カラ御
答ヘヲ戴キマシタノデ、ドウソはハ速
カニヤナルヤウニ御盡力ヲ御願ヒ申上ゲ
タイト思フノデアリマス、其ノ他農村
工業トシテ農業會ニヤラセテ宜イモノ
ガ澤山アリマスガ、從來農村工業ニ對
スル所ノ御當局ノ態度ハ、ドチラカ云
フト消極的デアツタヤウニ思ハレルノ
デアリマス、併シ農林大臣ハ度々ノ機
會ニ於キマシテ積極的ナ考ヘテ御持チ
ニナツテ居ルヤウデアリマスカラ、私
共ハ大臣ノ御努力ニ期待シテ居ルヤウ
ナ次第アリマス、ソレデ、私ノ御尋
ね申上ゲタイコトハ、此ノ際企業許可
令ノ如キモ之ヲ廢シマシテ、自由活潑
ニヤラセルヤウニシタラドウカト云フ
コトデアリマス、此ノ點ニ對シテノ御
答ヘヲ戴キタイト思フ次第デアリマス
○松村國務大臣、御答ヘヲ申上ゲマス
ガ、農産物ノ加工事業ヲ農村デ起サレ

ルト云フコトハ非常ニ結構デアリ、私
ハ是非御願ヒ致シタイト思フノデアリ
マス、農村ノ工業ト申シマシテ、何カ
農業者ガアルニハ隨分不適當ナコトヲ
從來ヤツテ居タノデアリマス、例ヘテ
申シマスト、組合テ機ヲ織ツテ見タト
カ、羽二重ヲ織ツテ見タトカ云フヤウ
ナコトガ私等ノ所ニモアリマスガ、斯
様ナ商人ガ術ヲ以テヤラネバナラヌモ
ノヲ、一面田ヲ作ツテ、サウシテソレ
ヲ商人ト競争ショウト云フヤウナ考へ
方デハ本當ノ農村工業ハ起ラナイノデ
ハナイカ、農村工業ノ本當ノ大キナ面
ハ、所謂自ラ生産シタモノヲ自ア出来
ルダケ加工ヲスルト云フコトガアツノ
限度デアラウト思ヒマス、モウ一ツハ
ヤハリ専門ノ企業家ガ農村ノ家庭工業
ト結付クト云フコトデアラウト思ヒマ
ス、此ノ二ツノ面ニ將來ノ農村工業ノ
發展スル點ガアルノデアリマシテ、
思ヒヽノ思ヒ付キノ計畫ト云フモノ
ハ、是ハドウ云フモノデアラウコト考
ヘテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ農
產物ノ加工ト云フ問題ニ付テハ、是非
オヤリワ願ヒタインデアリマスガ、實
ハ是ハ今年バカリニ限リマセヌガ、將
來未利用資源ヲ利用スルト云フコトニ
付テモ、御承知ノ通リ政府ノ方デ全國
ニ亘ツテ計畫ハ立テ居リマス、計畫
ハ立テ居リマスガ、是ハ農業會等ニ
於テオヤリニナルノニハ最モ適當ナコ
トデアリマスノデ、農業會等ニ於テ進
ンデアレヲヤツテ戴キタイト思フノデ
アリマス、之ニ要スル機械其ノ他ニ付
テハ農林省デ良イモノヲ斡旋シテ、十
分指導モ致ス考ヘアリマスカラ、是
ハ農業會アタリガ最モ適切ナコトデア
リウト思ヒマスノデ、是非斯ウ云フコ
トハオヤリワ願ヒタイト思フノデアリ

マス、尙ほ序ニ申シマスガ、但シ農業會ト云モノガ何モ彼モ背食ヒ込ンデイタケルカト云ノ開題ハ、私ハ大キナ聞題デハナイカト思フ、是ハ農業會ノ方々カラ言ハレルコトハ實ニ多イモノヲ今日農業會ノ力デ負ヒ切レタルカト云ヒマスト、今日ノ農業會ノ現状デハ是ハ非常ニ困難デハナカラウトモ、ソレハ無理モナシト思フノデアリマス、併シナガラソレダケノモノヲトコトアリマスノテ、先づ第一ニ農業會トシテ選バレルコトハ、農業會ニ相應ハシイ、農業會デナケレバヤレタコトイコトカラ御始メバ頗ヒタイ、サウシテ力ガ十分アルヤウニナツクナラバ、外ヘ手ヲ出サレテモ宜イケレドモ、何モナクナリマスノデ、私ハ其ノ中ノ最モ相應ハシイモノノ農業會ノ使命トシテ、イ中ニヤルト云ノコトニナリマスト、ドレセ是モ機能ヲ發揮スルコトガ出来ナクナリマスノデ、私ハ其ノ中ノ最モ相應ハシイモノノ農業會ノ使命トシテ、ヤツテ戴キタイ、サク云フモノカラ始メテ戴キタイ、ソニ付テハ只今御詔ノ農產物ノ加工ノコトナドハ最モ相應ハシイト思ヒマスノデ、是非其ノヤウニ指導ヲ御願ヒシタトイ思フノデアリマス、米ノ精白、サウシテ糠ヲ取ルト云フコトニ付テハ十分考慮フ致シタイト思ヒマス、只今ノ所或ハ糠マヂモ人間ガ食ハナケレバナラヌト云フコトモアリマスノデ、十分ノ所マヂハ參り難ネルカモ知レマセヌガ、能ク考覈ヲシマス

○松村國務大臣 企業許可令ハ撤廢スルコトニ内閣ノ方針ガ決マツテ居ルアリマス、併シナガラ時期等ニ付ハ一寸此處デ申シ兼ネマスガ、大幅廢スルト云フヤウナ考ヘヲ持ツテ居ヤウデアリマス
○安孫子委員 大臣ニモウ少シ御導き申上ゲタインオノデアリマスガ、保留シテ置キマスカラ、他ノ機會ニ御許シラセヒマス
ソレカラ政府委員ニモウ一ツ申上ヌマス、農業團體法ノ十五條ノ第一項ハ俱シ命官ヲ以テ定ムル法人ト云フトガアリマス、是ハ今マテ團體法ニハ農事實行組合ト養鶏組合ガ括ケテ居ルガ、今度ノ法案フ見マスト任意加ムニナツテ居リバスガ、今度ノ改正法ニ依ツテ農事實行組合ヤ養鶏組合ハ入ルコトニナリマスカ

ガ爲ニ色々開則ヲ受ケルト云フ事實度々アル、所が法人ニナツテ居ナケバ、是ハ團體證義會ニ入ルコトガ出ナイコトニナルノデアリマスガ、何便法ヲ設ケラレル譯エ行カヌモノデリマセウカ、登記ヲシナイデ農業會入ルヤウナ方法ハ——私ニハ分リマスケレドモ、サウ云フ方法ガアルカウカト云フコト、モウ一ツ農業團法ノ施行令トカ施行規則ト云フモノドウナツテ居リマスカ、是ハ一體發ニナリマスカ、之ニ對スル大體見透ガ付キマシタラ伺ヒタイト思ヒマス○補見政府委員 第一點ノ賦課金ノ徵收方法ニ關スル認可ニ付キマシテハ、今回ノ改正ニ廢止スルコトニ致シテルノデアリマスガ、併シ大體ノ賦課ノ限度等ニ付テハ、現在モ命令ヲ以一定限度ヲ決メテ居ルノデアリマス是ハ組合員ノ権利義務ニ特ニ重大ナリ係ガゴザイマスノデ、此ノ點ハ從來リノ方法テ行キタイ、斯様ニ考ヘテリマス

ソレカラ實行組合ノ登記デアリマガ、是ハ御承知ノ通リ法人デアリマシ、第三者保護ノ關係モアリマスデ、登記ヲスルト云フコトニ付キマテハ、現行法制ノ下ニ於キマシテハ難デハナカト思ヒマス、併シ登記項ニ付テハ最小限度ノ是レ以上ハ簡略ニ出來ナイト云フ所マデ實ハ簡略ニシテ居ルヤウナ次第アリマス、只申シマスマヤウニ是レ以上ノ簡略性或は難カシイノデハナイカト考ヘテ居マス

第三點ノ施行規則ノ時期デアリマガ、此ノ法案ガ議會ヲ通過致シマシナラバ、直ぐ準備ヲ整ヘテ出來ルダ

年内ニ間ニ合へバ公布シタイト考ヘテ
居リマスガ、是ハ法制局トノ打合セラ
シナケレバナリマセヌノデ、今ノ所ハ
ツキリトシタコトハ申サレマセヌガ、
私共ノ方ト致シマシテハ出來ルダケ年
内ニ出シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス
○安孫子委員 私ノ地方ニ於キマシテ
ハ、開墾法ノ總改正ヲスルト云フヤウ
ナ聲モアリマスノデ、ドウシテモ是非
新シイ團體法ニ依リマシテ委員ノ改正
ヲヤラナケレバナラヌト思ヒマスガ、
出來ルダケ早ク出來マスヤウニ御骨折
頤ヒタイト思ヒマス、是デ私ノ質問ハ
終リマス、モウ少シ農林大臣ニ御伺ヒ
シタイノデアリマスガ、何レ……
○北委員長代理 今日ハ此ノ程度テ散
會スルコトニシマシテ、明日午前十時
カラ時間厲行デヤリタイト思ヒマス、
ドウゾ左様御水知ワ願ヒマス